

自己点検・評価報告書

－2021年度－

文化学園大学
文化学園大学短期大学部

『2021年度 自己点検・評価報告書』 作成にあたって

文化学園大学及び文化学園大学短期大学部では、教育研究の内部質保証のために、2006年度から毎年、全学的な自己点検・評価活動を実施しています。本学の自己点検・評価活動は、『文化学園大学自己点検・評価規程』に則り、文化学園大学将来構想委員会が自己点検・評価の基本方針と実施基準等を決定し、全学自己点検・評価委員会が自己点検・評価を実施し、報告書案を作成する体制により実施しています。本報告書には、本学の教育研究等にかかわる自己点検・評価検討機関ごとに、「本年度の課題」「取り組みの結果と点検・評価」「次年度への課題」のほか、エビデンスとして「会議等の開催記録」が掲載されています。2021年度は、学内の42検討機関、学園本部の4検討機関における結果をとりまとめました。記載文中の【大】は大学独自の事項、【短】は短期大学部独自の事項、【共】は大学と短期大学部に共通する事項を示しています。

また、報告書の執筆に際しての評価観点は、公益財団法人日本高等教育評価機構による評価基準を基本としています（以下の基準1～6）。このほか、本学が個性・特色として重視している独自基準には、「特色ある教育研究と社会貢献」と「国際交流」があります（以下の基準A, B）。本報告書には、これらの評価基準に沿って46検討機関が自己点検・評価した結果がまとめられています（冒頭に検討機関と基準及び基準項目との対応表を掲載）。

- 基準1. 使命・目的（使命・目的、教育目的）
- 基準2. 学生（学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応）
- 基準3. 教育課程（卒業認定、教育課程、学習成果）
- 基準4. 教員・職員（教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援）
- 基準5. 経営・管理と財務（経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計）
- 基準6. 内部質保証（組織体制、自己点検・評価、PDCA サイクル）
- 基準A. 特色ある教育研究と社会貢献
- 基準B. 国際交流

大学教育の内部質保障は、各検討組織における課題及び結果の記述に留まることなく、結果に対する客観的な点検・評価及び改善の方針が明確化され、PDCA サイクルが有効に機能することにより、はじめて継続的なものとなります。本報告書を学内の各組織における改善の指針として有効に活用していただければ幸いです。

全学自己点検・評価委員会では、本学の教育の内部質保障を推進するために、今後とも継続して全学的かつ自律的な自己点検・評価活動に取り組んでまいりたいと考えております。引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本報告書の作成にあたり、ご尽力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

2022年8月1日

全学自己点検・評価委員会
委員長 渡邊秀俊

本学の自己点検・評価報告書 一覧

1. 『文化女子大学の現状と課題 自己点検・評価報告書 平成13年度(2001)』
2. 『文化女子大学 自己評価報告書 平成17年度』
3. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成18年度—』
4. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成19年度—』
5. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成20年度—』
6. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成21年度—』
7. 『文化女子大学短期大学部 自己評価報告書 平成22年度』
8. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成22年度—』
9. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成23年度—』
10. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成24年度』
11. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成24年度—』
12. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成25年度—』
13. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成26年度—』
14. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成27年度—』
15. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成28年度—』
16. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成29年度』
17. 『文化学園大学短期大学部 自己点検評価書 平成29年度』
18. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成29年度—』
19. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—2018年度—』
20. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—2019年度—』
21. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—2020年度—』

文化学園大学

自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応

※ は対応していることを示す

検討機関名	基準1	基準2						基準3			基準4				基準5					基準6			基準A			基準B				
	使命・目的等	学生						教育課程			教員・職員				経営・管理と財務					内部質保証			特色ある教育研究と社会貢献			国際交流				
	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	6-1	6-2	6-3	A-1	A-2	A-3	B-1	B-2		
協議・審議機関	大学運営会議（将来構想委員会）																													
	全学自己点検・評価委員会																													
	全学F D委員会																													
協議機関	服装学部協議会																													
	造形学部協議会																													
	学部共通科目協議会																													
	国際文化学部協議会																													
審議機関	大学院	生活環境学研究科委員会																												
		国際文化研究科委員会																												
	学部	教授																												
			服装学部教授会																											
			造形学部教授会																											
		国際文化学部教授会																												
	常置	教務委員会																												
		学生支援委員会																												
		入試対策委員会																												
		就職委員会																												
	特別	研究委員会																												
		研究倫理委員会																												
		研究公正委員会																												
		研究活動不正防止委員会																												
		公開講座実行委員会																												
		ハラスメント防止委員会																												
	学部専門	障害学生支援委員会																												
		衣料管理士課程専門委員会																												
		建築・インテリア系資格専門委員会																												
		文化・語学研修専門委員会																												
課程専門	日本語教員養成課程専門委員会																													
	教職課程専門委員会																													
	学芸員課程専門委員会																													
	司書課程専門委員会																													
附属機関	国際交流委員会																													
	文化学園大学図書館																													
	文化学園服飾博物館																													
	文化学園ファッションリソースセンター																													
	文化学園国際交流センター																													
共同研究拠点	文化学園知財センター																													
	U S R 推進室																													
附属研究所	文化ファッション研究機構																													
	文化・衣環境学研究所																													
	文化・住環境学研究所																													
	和装文化研究所																													
	文化・ファッションテキスタイル研究所																													
事務局	教務部	教務課																												
	学生部	学事課																												
		学入課																												
		試験広報課																												
	研究協力室																													
	全学S D委員会																													
学園本部等	学園就職支援室就職支援一課																													
	文化学園学生支援センター																													
	総務部																													
	施設部																													
	経理部																													
	IT委員会																													

文化学園大学

委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連

	検討機関名	担当領域	内容	対応基準
協議・審議機関	文化学園大学 将来構想委員会 運営委員会	将来構想を検討	短・中・長期計画の企画立案、大学の現状について本学が行う評価に関する事項	1-1. 1-2. 4-1. 6-1. 6-2. 6-3
	全学自己点検・評価委員会	自己点検・評価の実施	自己点検・評価の基本方針に基づき、報告書案を作成	1-1. 1-2. 6-1. 6-2. 6-3
	全学 F D 委員会	教員の教育研究活動向上及び能力開発を検討実施	ファカルティ・ディベロップメントの方策に関する事項、教員の研修計画の立案並びに実施に関する事項、学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項、その他ファカルティ・ディベロップメントに関する事項	1-1. 1-2. 2-2. 3-3. 4-2. 6-1. 6-2. 6-3
常置委員会	教務委員会	カリキュラムの編成、実施及び改善に関する事項並びにその他教務に関する事項	カリキュラムの全体編成及び卒業認定単位に関する事項、カリキュラムの開講及び科目名に関する事項、カリキュラムの種類・単位数・年次配当等に関する事項、時間割に関する事項、委員会等の規程に関する事項、科目履修、試験、編入、転学、その他教務上の事項、他大学等の既修得単位の認定に関する事項	2-2. 2-5. 2-6. 3-1. 3-2. 3-3. 4-2. B-2
	学生支援委員会	学生支援の円滑化を図る	学生生活支援に関する事項、学生行事に関する事項、外国人留学生の教科指導に関する事項、外国人留学生と日本人学生・教員とのコミュニケーションの推進及び親睦に関する事項、学生会並びに学生会所属のクラブ・同好会・愛好会に関する事項	2-4. 2-5. 2-6. B-1
	入試対策委員会	本学入学生の募集並びに入学試験に関する諸事項の検討と推進を図る	学生募集並びに入学試験実施に関する諸事項	2-1
	就職委員会	学生の就職に関する諸問題の検討と推進を図る	就職指導に関する事項、就職先企業の調査、研究及び開拓に関する事項、就職のための学内選考に関する事項、学生支援・面接に関する事項、インターンシップに関する事項	2-3
特別委員会	研究委員会	教員の研究に資する	全学的な研究体制、研究組織に関する事項、学術研究振興資金への申請に関する学内選抜、研究費、研究図書費、その他研究助成に関する事項、学内外の共同研究に関する事項、学内外の研究交流に関する事項、研究成果の発表に関する事項、紀要の編集刊行に関する事項	4-2. 4-4. A-1. A-3
	研究倫理委員会	研究者が、人間を直接対象とした研究のうち、倫理上の問題が生じる恐れのある研究を行う場合の留意事項及び手続き等を定め、研究対象者及びその関係者の人権を擁護する	研究実施計画の審査、研究の検証、その他研究上の倫理に関する事項	4-4. A-1
	研究公正委員会	研究費の不正使用の防止を図る	本学における研究活動の不正行為に対処	4-2. 4-4
	研究活動不正防止委員会	研究活動について、不正行為の防止及び不正行為に起因する問題が生じた場合に適切かつ迅速に対処する	競争的研究資金及びその他の研究費に係る不正使用帽子計画を策定、不正使用計画の実施状況を調査、必要に応じて改善を指示	4-2. 4-4
	公開講座実行委員会	研究上の成果とリソースを広く社会に開放し、一般市民の教養の増進と専門知識の修得に資する	公開講座開催に関する事項	4-2
	ハラスメント防止委員会	ハラスメントに関する防止、調査及び救済を統括する	ハラスメント防止の啓蒙活動、ハラスメントの実態の把握、ハラスメント事案について当事者及び関係者から事情を聴取、その他ハラスメント防止に関する必要な事項	2-4. 2-6. 5-1
	障害学生支援委員会	障害のある学生がその修学について不利益な扱いを受けず、適切な支援を受けられる体制づくりの推進を図る	修学等支援方針にかかる計画の策定にあつての指導・助言、障害のある学生及び受験者の同定、少額学生修学支援（入学試験における支援を含む）に関する指導・助言	2-4. 2-5. 2-6
学部専門委員会	衣料管理士課程専門委員会	衣料管理士免許状の取得に関する事項	衣料管理士専門課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法、テキストスタイルアドバイザー実習関係等、衣料管理士資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	建築・インテリア系資格専門委員会	建築インテリア系資格の取得達成に寄与する	建築・インテリア系受験資格に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法、建築・インテリア系受験資格の認定に関する事項、資格取得の支援方法に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	文化・語学研修専門委員会	文化・語学研修に関する事項	文化・語学研修の教育方法に関する事項、文化・語学研修の学生指導に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	日本語教員養成課程専門委員会	日本語教員養成課程修了資格の取得達成に寄与する	資格課程の全体計画、カリキュラムの編成その、履修方法など、修了資格の取得達成に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
課程専門委員会	教職課程専門委員会	教育免許状の取得達成に寄与する	教育課程の全体計画、カリキュラムの編成、その履修方法並びに教育実習の年間計画等を策定し、かつ各部会の連絡調整	3-1. 3-2. 3-3
	学芸員課程専門委員会	学芸員資格の取得達成に寄与する	学芸員課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法等、学芸員資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	司書課程専門委員会	図書館司書資格の取得達成に寄与する	司書課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法等、司書資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
国際交流委員会	学生の海外留学及び国外大学との連携について審議・検討	学生の海外留学、国外大学との単位互換及び国外大学の学生の研修受入れに関する事項	B-1. B-2	

文化学園大学短期大学部

自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応

※ は対応していることを示す

検討機関名	基準1	基準2						基準3			基準4			基準5					基準6			基準A		基準B							
	使命・目的等	学生						教育課程			教員・職員			経営・管理と財務					内部質保証			特色ある教育		学外への学修成果の発信							
	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	6-1	6-2	6-3	A-1	A-2	B-1	B-2				
協議・審議機関	大学運営会議（将来構想委員会）																														
	全学自己点検・評価委員会																														
	全学F D委員会																														
協議機関	短期大学部協議会																														
審議機関	教																														
	常置	教授委員会																													
		教務委員会																													
		学生支援委員会																													
	特別	入試対策委員会																													
		就職委員会																													
		研究委員会																													
		研究倫理委員会																													
		研究公正委員会																													
		研究活動不正防止委員会																													
附属機関	公開講座実行委員会																														
	ハラスメント防止委員会																														
	障害学生支援委員会																														
	文化学園大学図書館																														
	文化学園服飾博物館																														
共同研究拠点	文化ファッション研究機構																														
附属研究所	文化・衣環境学研究所																														
	文化・住環境学研究所																														
	和装文化研究所																														
	文化・ファッションテキスタイル研究所																														
事務局	教務部																														
	学生部	教務課																													
		学務課																													
	研究協力室																														
	全学S D委員会																														
学園本部等	学園就職支援室																														
	文化学園学生支援センター																														
	総務部																														
	施設部																														
経理部																															
IT委員会																															

文化学園大学短期大学部

委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連

	検討機関名	担当領域	内容	対応基準
協議・審議機関	文化学園大学 将来構想委員会 運営委員会	将来構想を検討	短・中・長期計画の企画立案、大学の現状について本学が行う評価に関する事項	1-1. 1-2. 4-1. 6-1. 6-2. 6-3
	全学自己点検・評価委員会	自己点検・評価の実施	自己点検・評価の基本方針に基づき、報告書案を作成	1-1. 1-2. 6-1. 6-2. 6-3
	全学 F D 委員会	教員の教育研究活動向上及び能力開発を検討実施	ファカルティ・ディベロップメントの方策に関する事項、教員の研修計画の立案並びに実施に関する事項、学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項、その他ファカルティ・ディベロップメントに関する事項	1-1. 1-2. 2-2. 3-3. 4-2. 6-1. 6-2. 6-3
常置委員会	教務委員会	カリキュラムの編成、実施及び改善に関する事項並びにその他教務に関する事項	カリキュラムの全体編成及び卒業認定単位に関する事項、カリキュラムの開講及び科目名に関する事項、カリキュラムの種類・単位数・年次配当等に関する事項、時間割に関する事項、委員会等の規程に関する事項、科目履修、試験、編入、転学、その他教務上の事項、他大学等の既修得単位の認定に関する事項	2-2. 2-5. 2-6. 3-1. 3-2. 3-3. 4-2. A-1
	学生支援委員会	学生支援の円滑化を図る	学生生活支援に関する事項、学生行事に関する事項、外国人留学生の教科指導に関する事項、外国人留学生と日本人学生・教員とのコミュニケーションの推進及び親睦に関する事項、学生会並びに学生会所属のクラブ・同好会・愛好会に関する事項	2-4. 2-5. 2-6
	入試対策委員会	本学入学生の募集並びに入学試験に関する諸事項の検討と推進を図る	学生募集並びに入学試験実施に関する諸事項	2-1
	就職委員会	学生の就職に関する諸問題の検討と推進を図る	就職指導に関する事項、就職先企業の調査、研究及び開拓に関する事項、就職のための学内選考に関する事項、学生支援・面接に関する事項、インターンシップに関する事項	2-3
特別委員会	研究委員会	教員の研究に資する	全学的な研究体制、研究組織に関する事項、学術研究振興資金への申請に関する学内選抜、研究費、研究図書費、その他研究助成に関する事項、学内外の共同研究に関する事項、学内外の研究所の交流に関する事項、研究成果の発表に関する事項、紀要の編集刊行に関する事項	4-2. 4-4
	研究倫理委員会	研究者が、人間を直接対象とした研究のうち、倫理上の問題が生じる恐れのある研究を行う場合の留意事項及び手続き等を定め、研究対象者及びその関係者の人権を擁護する	研究実施計画の審査、研究の検証、その他研究上の倫理に関する事項	4-4
	研究公正委員会	研究費の不正使用の防止を図る	本学における研究活動の不正行為に対処	4-2. 4-4
	研究活動不正防止委員会	研究活動について、不正行為の防止及び不正行為に起因する問題が生じた場合に適切かつ迅速に対処する	競争的研究資金及びその他の研究費に係る不正使用帽子計画を策定、不正使用計画の実施状況を調査、必要に応じて改善を指示	4-2. 4-4
	公開講座実行委員会	研究上の成果とリソースを広く社会に開放し、一般市民の教養の増進と専門知識の修得に資する	公開講座開催に関する事項	4-2
	ハラスメント防止委員会	ハラスメントに関する防止、調査及び救済を統括する	ハラスメント防止の啓蒙活動、ハラスメントの実態の把握、ハラスメント事案について当事者及び関係者から事情を聴取、その他ハラスメント防止に関する必要な事項	2-4. 2-6. 5-1
	障害学生支援委員会	障害のある学生がその修学について不利益な扱いを受けず、適切な支援を受けられる体制づくりの推進を図る	修学等支援方針にかかる計画の策定にあたっての指導・助言、障害のある学生及び受験者の同定、少額学生修学支援（入学試験における支援を含む）に関する指導・助言	2-4. 2-6
国際交流委員会	学生の海外留学及び国外大学との連携について審議・検討	学生の海外留学、国外大学との単位互換及び国外大学の学生の研修受入れに関する事項	2-4. 2-5. 2-6	

目 次

『2021 年度自己点検・評価報告書』作成にあたって	2
文化学園大学 自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応	4
委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連	5
文化学園大学短期大学部 自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応	6
委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連	7
協議・審議機関	
大学運営会議・将来構想委員会	12
全学自己点検・評価委員会	14
全学FD委員会	16
協議機関	
服装学部協議会	20
造形学部協議会	22
学部共通科目協議会	24
国際文化学部協議会	26
短期大学部協議会	28
審議機関	
大学院研究科委員会	
生活環境学研究科委員会	33
国際文化研究科委員会	34
教授会	
文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録	36
文化学園大学短期大学部教授会開催記録	37
常置委員会	
教務委員会	38
学生支援委員会	40
入試対策委員会	42
就職委員会	44
特別委員会	
研究委員会	46
研究倫理委員会	48
研究活動不正防止委員会	50
公開講座実行委員会	52
ハラスメント防止委員会	54
障害学生支援委員会	55
学部専門委員会	
衣料管理士課程専門委員会	56
建築・インテリア系資格専門委員会	58
文化・語学研修専門委員会	60
日本語教員養成課程専門委員会	61
課程専門委員会	
教職課程専門委員会	62
学芸員課程専門委員会	64
司書課程専門委員会	66
国際交流委員会	68

附属機関等

文化学園大学図書館	70
文化学園服飾博物館	72
文化学園ファッションリソースセンター	74
文化学園国際交流センター	75
文化学園知財センター	76
USR 推進室	78

共同研究拠点

文化ファッション研究機構	82
--------------	----

附属研究所

文化・衣環境学研究所	86
文化・住環境学研究所	88
和装文化研究所	90
文化・ファッションテキスタイル研究所	91

事務局

全学SD委員会	94
---------	----

学園本部

学園本部総務部	96
学園本部施設部	98
学園本部経理部	99
IT委員会(IT戦略室)	100

附：委員会委員一覧表	附2
学部・学科・コース編成	附4
入学定員・収容定員・在籍学生数	附5
全学自己点検・評価委員会委員名簿	附6

協議・審議機関

■検討組織名：大学運営会議・将来構想委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学全体の教育システムとカリキュラムの検討をより広範な観点から進める。 2. 「オンライン授業」と「LP」の関係を検証し、教育の質保証について、2021年度の経過を参考に する。 3. 入試制度のより具体的な変更が必要となる状況を検証し学生募集に役立てる方法を検討する。 4. 教員の配置、カリキュラムの検討など、現代文化学部応用健康心理学科と短期大学部ファッション学科の基本とするところを、発展的に活用する方法を議論する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 若手教員を交えた将来構想委員会の検討について、最終報告を受けた。報告に基づき、本学の今後の学部学科構成を含めた将来構想について検討する。 2. 2022年度授業実施に向けてオンライン授業について検証した。結果、2022年度は対面授業を基本としつつ、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」）が感染拡大した場合及び教育効果の一層の向上が期待される場合は、オンライン授業も併用することとした。特にゼミのような形態の科目や、総合教養科目で導入した「タイムシフト制」については、オンライン授業による教育効果が高いことが認められた。 3. 2022年度入試より、推薦入試2期を導入した。2023年度学生募集へ向けて、応募状況等を精査する。 4. 現代文化学部応用健康心理学科については研究室名と所属教員は当面は現行のままとし、学園全体の学生相談への関与の強化を図り、学生の心身の健康への支援に取り組むこととする。 短期大学部ファッション学科については、所属教員のうち2人が国際ファッション研究室へ異動し、同学科の更なる教育の充実を図ることとする。残る6人の教員は現研究室所属のまま、服装学部ファッション社会学科の実習科目（アパレル設計関連科目）の担当と、今後の大学教育に寄与すべく、短期大学部が開学以来蓄積してきたリソースの管理・整理等にあたる。 【共】
<p>次年度への課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 若手教職員を交えた将来構想委員会からの報告に基づき、今後の本学の学部学科の構成等について検討する。 2. より多くの志願者の獲得と学生確保を目指すために、学生募集に関して具体的な改善策の検討・実施に努める。 【大】

■検討組織名：大学運営会議・将来構想委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年6月1日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学長挨拶 オンラインを中心とした今年度の授業体制について 2. オンライン授業について 本学におけるオンライン授業の課題点に関する現状報告と、新型コロナ収束後のオンラインを含めた授業のあり方について討議 3. 2020年度事業報告について 事務局長より報告 4. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部 文化学園創立100周年に向けた中期計画2020年度結果について 別紙配付資料確認 5. その他 服装学部長よりGoogle Classroomの作成依頼
2021年10月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学長挨拶 学校法人ガバナンス改革会議について 2. 若手教職員を交えた将来構想委員会経過報告 別紙資料に基づき、学部学科の再編成案等について討議 3月の当会議までに、学長に答申を提出する予定 3. その他 自立した人材育成のための附属施設（服飾博物館・図書館・ファッションリソースセンター）の有効な活用について大学院研究科長より提案
2022年2月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 応用健康心理学科・短期大学部ファッション学科の卒業に向けての状況について 2. 2022年度からの教員の勤務時間の取扱いについて 3. その他 教員の昇任昇格に関する審査について、2021年度卒業式について
2022年3月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 若手教職員を交えた将来構想委員会からの最終報告 別紙資料に基づき委員長より報告。これをもって最終報告とする。 2. 2022年度事業計画について 3. 教員人事について 正教授会後の非常勤講師採用等について報告、承認。

■ 検討組織名：全学自己点検・評価委員会

報告者：渡邊 秀俊

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2020年度-』のまとめと公表 2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2021年度-』の見直しと作成 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部の42検討機関、文化学園本部の4検討機関の計46の検討機関による自己点検・評価結果をまとめた自己点検・評価報告書を作成した。報告書は学園運営会議での確認を経た後に、2021年8月1日付けで学内及び関連部署へPDFで配信するとともに、本学ホームページにおいて外部に公表した。</p> <p>報告書の発刊時期は、従来は10月1日であったが、2021年度は各検討機関が可能な限り早い時期から点検・評価に活用できるように8月1日に前倒しする改善を図った。今後の課題としては、①前年度と同じ誤記の防止、②大学院の2つの研究科委員会の「会議等の開催記録」の統一化、③「自己点検・評価検討機関」と「認証評価の基準」との対応関係の妥当性等について検討する必要があることを確認した。</p> <p>以上のことから、『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2020年度-』のまとめと公表については、滞りなく実施されたと評価できる。</p> <p>2. 文化学園内の自己点検・評価の検討機関の見直しと、提出された原稿を全学自己点検・評価委員会として確認・精査する組織体制の見直しを行った。あわせて、自己点検・評価報告書の様式、執筆要領及びスケジュール等を再検討した。原稿提出締め切りは2022年4月1日とし、2022年1月の教授会にて執筆を依頼した。</p> <p>改善事項としては、認証評価の「評価の観点」を正確に理解いただくために「評価基準と自己判定の留意点」を配付資料に加えることとした。また、今後の課題として挙げられた事項については、以下のように改善することとした。</p> <p>(1)前年度と同じ誤記の防止については、執筆依頼書に前年度の報告書のデータを参照できるリンクを記載することで、正確な記載方法が継承できるように改善した。</p> <p>(2)大学院の2つの研究科委員会の「会議等の開催記録」の統一化については、生活環境学研究科と国際文化研究科の大学院研究科委員会は合同で開催されている実情に鑑み、「本年度の課題、取り組みの結果と点検・評価、次年度の課題(様式1)」は研究科ごとに執筆するが、「会議等の開催記録(様式2)」は一本化することとした。</p> <p>(3)「自己点検・評価検討機関」と「認証評価の基準」との対応関係の妥当性については、対応関係について見直しを行い、軽微な修正をした。</p> <p>以上のことから、『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2021年度-』の見直しと作成については、PDCAサイクルのもとに適切に実施されたと評価できる。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2021年度-』のまとめと公表 2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2022年度-』の見直しと作成 【大】</p>

■検討組織名：全学自己点検・評価委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月27日	1. 新委員の紹介 2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2020年度-』の提出原稿の確認（軽微な修正報告） 3. 今後のスケジュール（発刊時期の見直し）
2021年10月5日	1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2020年度-』の振り返り（原稿締め切り日、記載日の確認） 2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2021年度-』の作成方法について（問題点、改善点の確認）
2021年12月7日	1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2021年度-』の作成について（執筆要領、原稿依頼先及び添付資料の確認） 2. その他（原稿執筆依頼日及び提出日の確認）

■検討組織名： 全学FD委員会

報告者：昼間 行雄

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2021年度「全学FD・SD研修会」、「秋の分科会」、「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施 2022年度「全学FD・SD研修会」、「分科会」、「FD教職員による授業見学ウィーク」等の企画立案 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」集計方法とアンケート回収率向上に関する改善、改良、「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の実施 学生代表との対話の実施 他大学・団体等の「FD活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2021年度「全学FD・SD研修会」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため常勤教職員のみ対象とし、対面とオンラインを併用した講演会を4月2日に開催した。オンライン授業アドバイザーグループ（2020年度は情報IRワーキンググループ）主査による2020年度のオンライン授業を振り返る講演では、2020年度4月から急遽開始されたオンライン授業の本学でのシステム構築や実施までの経緯、全教員に対するサポート、実際の運用で生じた教育上の問題点や対面授業には無い利点などを総括する内容が報告された。続いて、学生生活支援室室長からは、オンライン授業が続く中で、支援室に訪れる学生のメンタル面の相談事例を元にしたコロナ禍での学生の心理状況の解説と、教員の対処方法など具体的な事例をもとにした講演が行われた。 「秋の分科会」は、オンライン授業での工夫や独自のオンライン授業の方法などの情報を共有することを目的として、9月10日にオンラインで開催した。15グループに分かれて1時間30分の意見交換を行い、リモートを活用した様々なアイデアや実践報告が行われた。 教職員による相互の授業見学「FD教職員による授業見学ウィーク」は、多くの授業がリモート授業を継続していることから2021年度は行わなかった。 2022年度「全学FD・SD研修会」の企画については、新型コロナウイルス感染拡大が収まらない状況を考慮し、2021年度同様、常勤教職員のみを対象として実施することとし、対面とオンラインを併用しての講演を実施するが、分科会は行わない事として、テーマと講師を検討した。その結果、「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」をより教員に活用していただくための報告を、全学FD委員会委員に依頼した。また、SDGs（持続可能な開発目標）を専門に様々な取り組みを行っている外部講師に、勤務校での授業内容や学外連携での事例紹介とその教育効果についての講演を依頼し、快諾を頂いた。 2018年度に発足した「授業アンケート小委員会」で内容や実施方法の検討を重ねている「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」を、2021年度前期・後期に実施した。回答率を高めるための方法を検討して、Google Classroomを使って授業内での回答を促すなどの方法を推奨した。さらに2021年度は、教員へのフィードバック方法の検討と、本アンケートの利用を高める方法を検討した。 学生代表と全学FD委員会メンバーによる対話は、コロナ禍のため2020年度に続き、2021年度も実施しなかった。 他大学、団体等の活動に関する継続した情報収集については、8月28日に開催されたオンラインセミナー「2021年度IRフォーラム」に委員長が参加し、大学3校での教育改善への取り組み事例の発表を聴講した。 【共】
<p>次年度への課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2022年度「全学FD・SD研修会」、「秋の分科会」及び「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施 2023年度「全学FD・SD研修会」、「分科会」、「FD教職員による授業見学ウィーク」等の企画立案 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」実施と実施方法に関する改善 学生代表との対話を実施 他大学・団体等の「FD活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加 【大】

■検討組織名：全学FD委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月2日 2021年度第1回 全学FD委員会	1. 2021年度「全学FD・SD研修会」の反省 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」コメントの取り扱いについて検討 3. 2021年度授業見学ウィークの開催もコロナ禍のため中止とする確認、決定
2021年5月18日 アンケート小委員会	1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の2021年度前期科目スケジュールの確認 2. 2021年度前期科目アンケート内容の確認
2021年5月26日 2021年度第2回 全学FD委員会	1. 2020年度後期・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」についての改善点（各研究室の回答状況の掲載、自由記述の掲載）の検討 2. 2021年度前期科目では、フォームの教員名は、複数担当でも代表者1人とすることに変更
2021年7月9日 2021年度第3回 全学FD委員会	1. 2020年度後期・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について教員にフィードバックする時期を検討し、本アンケートの報告書を学部長、主任教授、研究室長、事務局各部長が閲覧できるドライブにアップすることを決定 2. 2021年度前期科目のアンケート回収率向上の依頼 3. 2021年度秋の分科会について、日程、内容等の検討
2021年9月10日 2021年度第4回 全学FD委員会	1. 2021年度秋の分科会の反省点を抽出した。分科会報告書にカメラ等の商品名を記載することの可否について、本報告書は学外に公表するものでないため、記載可とすることに決定 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」トップ10の公表について今後の検討
2021年11月2日 2021年度第5回 全学FD委員会	1. 2021年度秋の分科会報告書について配信日時を決定 2. 2022年度「全学FD・SD研修会」について、日程、内容を決定 「SDGsについて」、「学生によるカリキュラム・授業改善アンケートについて」の2部構成
2021年11月2日 アンケート小委員会	1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」2021年度前期分のアンケート報告書の内容について検討
2021年12月7日 2021年度第6回 全学FD委員会	1. 2022年度「全学FD・SD研修会」の講演者を決定 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」2021年度後期・通年科目実施スケジュールについて、アンケート結果の評価方法について検討
2021年12月7日 アンケート小委員会	1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」2021年度後期・通年科目実施スケジュールについて検討
2022年2月18日 2021年度第7回 全学FD委員会	1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」2021年度後期・通年科目の経過報告 2. 2022年度「全学FD・SD研修会」について講師と開催方法の確認
2022年2月18日 アンケート小委員会	1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」2021年度後期・通年科目のフィードバックについて検討
2022年3月23日 アンケート小委員会	1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」2021年度後期・通年科目をフィードバックする際の内容について検討し、時期は2022年度の「全学FD・SD研修会」での発表のため、3月中に行うことに決定 2. 2022年度「全学FD・SD研修会」での発表内容について検討

協 議 機 関

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新カリキュラム体制の完成期(4年目)となる2021年度は、ディプロマ・ポリシーに沿った内容の充実を図り、カリキュラム改定の有効性を確認する。 【大】 2. 進級、卒業に関する学生支援(休・退学者の減少対策含む)のため、特に1年生のクラス間の意見交換や、1~4年生を通じた学部協議会、学科会議での意見交換の場を充実させ教員間の共通認識を高める学生指導マニュアルを確認する。 【大】 3. オンライン授業の中で有用性が認められる点については、新型コロナの収束後も新しい大学教育の一部として構築することを検討する。 【大】 4. 大学生としての社会的責任、特に環境問題(カーボンニュートラルを含む)については、体験や学生が思考する場をクラス活動やカリキュラムの内容に取り入れる。 【大】 5. USR推進室の活動の一つである、AP長期学外学修プログラムを、2021年度後半のコラボレーション科目として開講し、国内での研修内容を質・量ともに充実させ実施する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度より開始した新カリキュラムは4年目を迎え、4年生の卒業研究科目をはじめ、卒業要件単位数の充実を図るべく学生による「カリキュラム・授業改善アンケート」を行った結果、新カリキュラムの内容も含んではいるが、オンライン授業における良否の表出が主となった。中でも実物製作や実験結果の考察等の点検から、学生の理解不足部分を見出すなど、新カリキュラムの改善やティーチングポートフォリオ作成等に繋がる有用な資料を得ることができた。 【大】 2. 1年生の担任・副担任による打ち合わせ会の充実から、学生のメール配信既読が良好であった。しかし、進級不可の学生を作らないためのクラスごとの個人面談等がオンラインで開催することが多く、十分にコミュニケーションがとれたとは言い難い結果となった。 【大】 3. 新型コロナの感染対策(密回避)の一部として、同日の授業におけるクラスの半数をオンライン授業で動画を配信し、半数を対面授業にて講義を行った結果、オンライン授業時の動画が予習となり、翌週対面授業で製作を行うなど時間の有効な使い方へ繋がった。つまり動画は自己学修の向上として有効であることから今後も継続すべき授業方法といえる。 【大】 4. 一部の科目で企業の売れ残り商品の提供を受けアップサイクル作品を製作し百貨店での展示を行ったが、学部全体のボランティア活動は新型コロナの密回避を重視し中止した。 【大】 5. 4と同様にAP長期学外学修プログラムを中止せざるを得ない結果となった。 【共】
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新カリキュラム体制の完成期後とディプロマ・ポリシーとの整合性を図り、カリキュラム改定の有効性を確認しながら修正等も検討する。 2. 進級、卒業に関する学生支援(休・退学者の減少対策含む)として、2020度は新型コロナのために不足した対面型個人面談等の時間を増やし学生の思考状況の理解に努める。面談で得た内容については、教員による学年間の意見交換や1~4年生を通じた学部協議会、学科会議での意見交換の場を充実させ、学生支援に対する教員間の共通認識を確認する。 3. オンライン授業の中で有用性が認められた内容又は方法については、今後の継続を目的にした実施・検討を行う。 4. 大学生としての社会的責任、特に環境問題(カーボンニュートラルを含む)について、クラス活動やカリキュラムに体験や学生が思考する場として取り入れる。 5. 2022年度のコラボレーション科目としたAP長期学外学修プログラムを、国内・外ともに復活(2020年度、2021年度は中止)させ、学修内容の質・良ともに充実した実施を目指す。 【大】

■検討組織名：服装学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月8日	1. 2021年度授業体制の説明 2. 新年度の確認事項（協議会の運営、学科会議の運営） 3. 人事関係（主任教授、研究室長）報告 4. 学内研究発表会の日程報告 5. 「卒業研究」 発表会開催の方法報告 6. 1年生、3年生、4年生へ「研究倫理に関する注意（学生向け）」 の説明依頼 7. USR推進室よりAP長期学外学修プログラムの説明
2021年5月11日	1. 新型コロナによる緊急事態宣言延長を踏まえた授業について 2. 学内研究発表会の司会と実行委員報告 3. USR推進室より産学連携事業の予定（ファッ ション画コンペティション）説明 4. オンライン授業におけるトラブル等の情報関係担当教 員確認 5. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」「キャリアデザイン （展開編）－コースセミナー」の見直し報告
2021年6月10日	1. ファッションクリエイション学科のカリキュラム変更（科目名変更、科目の削除）審議 2. ファッション社会学科の産学連携・学科外交流の説明 3. ボランティア活動の見合わせに ついて
2021年7月13日	1. ファッションクリエイション学科のカリキュラム改定の審議 2. 学内研究発表会の登録 応募について 3. 文化祭開催の形式説明と参加内容の検討を依頼 4. USR推進室よりAP 梅春（2月末～3月初旬）長期学外学修プログラムの説明 5. USR推進室よりBFDA（Bunka Fashion Digital Academy）設立の説明
2021年9月7日	1. 学内研究発表会のレジュメ配信と当日の日程説明 2. 進学イベント「夢ナビライブ2021web in summer」開催の報告 3. ファッションクリエイション学科のキャリアデザインについて説 明 4. ファッション社会学科の卒業研究発表会検討事項途中報告
2021年10月12日	1. 学内研究発表会の結果報告 2. 2021年度AP長期学外学修プログラム実施の縮小を報告 3. 産学連携・学科外交流のユニホームコンテスト結果報告 4. 「エコプロ2021～持続可能な 社会の実現に向けて～」の参加申請の報告 5. ファッションクリエイション学科卒業研究の 発表会日程報告
2021年11月9日	1. 高校生ファッション画コンテスト（FIE）の表彰式について 2. ファッションクリエイシ ョン学科「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」の実施報告 3. ファ ッションクリエイション学科4年生の個人面談実施の依頼（就職状況調査と卒業研究の進捗状 況を中心に）
2021年12月14日	1. 卒業研究提出にあたり、「研究倫理に関する注意」の再読を学生へ促すことを依頼 2. 「エコ プロ2021～持続可能な社会の実現に向けて～」の参加報告 3. 新カリキュラム完成年度に おける科目ごとの学生によるカリキュラム・授業改善アンケートを依頼 4. ファッション社 会学科の入試別学生傾向の分析の途中報告
2022年1月6日	1. ファッションクリエイション学科2年生のフィールド調査（3年次進級時のフィールド希 望）終了報告 2. 卒業研究発表会の形式変更依頼（Web配信型とする）
2022年2月8日	1. ファッション社会学科2年生の専門ゼミ募集の経過報告 2. ファッションクリエイシ ョン学科より卒業研究発表会のWeb配信日程の案内 3. ファッション社会学科より卒業研究発 表会の終了報告 4. USR推進室よりAP梅春（2月末から3月初旬）長期学外学修プログラムの 中止説明 5. USR推進室より大学情報発信のためのアドレス登録を卒業生へ依頼
2022年3月4日	1. ファッションクリエイション学科2年生のフィールド調査より3年次進級時のクラス分け 結果を報告 2. 2021年度各学年責任者より、2022年度学年担当教員への申し送り事項を説明

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. LMS (学習管理システム) 及びオンラインを利用した新しい教育方法の構築 2. カリキュラム編成の妥当性の検証 3. 教育の質保証のための教育環境の整備 4. キャリア形成教育の見直し・改善 5. 休学・退学に至る背景の分析 6. 学外連携 (産学連携・地域連携・高大連携) の促進 7. 修学成果の学外公表の促進 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. LMS (Google Classroom) も有効に活用されてきた結果、新しい教育方法が構築されつつあると評価できる。一方で、対面授業でないで得られない学修効果 (学生同士の学びなど) があることが新たな課題として明らかになった。 2. デザイン・造形学科では、科目の削除、新設、名称変更を、建築・インテリア学科では科目の種別の変更をした。カリキュラム・ポリシーに沿った科目の見直しはなされたと評価できる。 3. デザイン・造形学科では、学生の安全のために地下の「デザイン・共同演習室」に電話を設置した。建築・インテリア学科では、オンラインと対面の同時進行によるハイブリッド授業を可能とするために、17階と18階の実習室・演習室にWi-Fi環境を整備した。オンラインを併用した新しい教育方法のための環境整備は一定程度推進できたが、十分とは言えない。 4. 「キャリアデザイン (導入編) -フレッシュマンキャンパー」「キャリアデザイン (展開編) -コースセミナー」とともに、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインを主として実施せざるを得なかった。学外施設の見学も個人又は小グループでの実施に限定された。学生同士の学び、卒業生からの学びについては、オンラインでも一定程度の成果があったと評価できるが、十分とは言えない。 5. 2021年度の中途退学率は3.2%であり、2019年度4.1%、2020年度3.3%と比べると、わずかではあるが減少傾向にあった。中途退学の理由は、経済的困窮と進路変更が主たる要因であることを把握した。 6. 「多摩産材を活用したインテリア小物のデザイン・制作」「『染の小道』新宿中井・落合地域活性化プロジェクト」「ネクタイコラボレーション展」「デコブラインドのデザインと制作」「勇気ある経営者対象PR映像制作」は、感染防止対策を施した上で実施することができた。「長野県須坂市の古民家再生プロジェクト」だけは実施を控えたが、2020年度は計画した5事業のうち1事業しか実施できなかったことと比較すると、当初の目的は概ね達成できたと評価できる。 7. 造形学部の卒業研究展は対面とオンラインの併用を予定していたが、新型コロナの感染状況の悪化により、急遽オンラインでの実施に変更して実施した。このほか、学生の学修成果は『造形学部年間教育活動報告集 (BZ)』や学部・学科のSNS等で学外に公表した。修学成果の学外公表については、当初の目的を概ね達成できたと評価できる。ただし、学修成果の公表方法は必ずしも両学科で同質のものである必要はないため、今後は学科の教育の特色を生かした公表方法も検討することを課題とする。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. LMS (学習管理システム) 及びオンラインを利用した新しい教育方法の推進 2. 教育の質保証のための教育環境の整備 3. カリキュラム編成の妥当性の検証 4. キャリア形成教育の見直し・改善 5. 休学・退学に至る背景の分析 6. 学外連携 (産学連携・地域連携・高大連携) の促進 7. 修学成果の学外公表の促進 <p style="text-align: right;">【大】</p>

■検討組織名：造形学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月1日	1. 新任の紹介 2. 2021年度の造形学部の方針について 3. 2021年度の造形学部の入学生数について 4. その他
2021年5月11日	1. 2021年度の造形学部の方針について(補足説明) 2. 4/24のオープンキャンパスの振り返り 3. 2021年度学内研究発表会の担当者について 4. 2021年度の卒展企画WG(仮称)について 5. 学部に関連する大学の動向について 6. その他
2021年6月8日	1. 5/29のオープンキャンパスの振り返り 2. 2022年度以降のキャリア形成教育科目の見直しについて 3. 2022年度のカリキュラム変更について 4. 2021年度の卒業研究展実行委員会について 5. 2021年度の入学者選考判定委員について 6. 高等学校の出張授業について 7. 学部に関連する大学の動向について 8. その他
2021年7月13日	1. 2022年度カリキュラム変更についての審議 2. オープンキャンパス(6/20、7/11)の振り返り 3. サマーオープンカレッジ(7/29～30)について 4. 学内研究発表会(9/24)について 5. 「キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー」について 6. 卒業研究展について 7. 学部に関連する大学の動向について 8. その他
2021年9月7日	1. オープンキャンパス(8/27～28)の振り返り 2. サマーオープンカレッジ(7/29～30)の振り返り 3. オープンキャンパス(9/25)について 4. 学内研究発表会(9/24)について 5. 「キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー」について 6. 文化祭について 7. 卒業研究展について 8. 学部に関連する大学の動向について 9. その他
2021年10月12日	1. 学内研究発表会(9/24)の振り返り 2. オープンキャンパス(9/25)の振り返り 3. 「キャリアデザイン(導入編)ーフレッシュマンキャンパー」(建築・インテリア学科:9/29)の振り返り 4. A0入試1期について 5. 「キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー」について 6. 文化祭について 7. 卒業研究展について 8. 昇任・昇格等の申請について 9. 学部に関連する大学の動向について 10. その他
2021年11月9日	1. 2022年度 施設部あて予算見積申請について 2. 2022年度 備品等計画書 3. 2022年度造形学部の事業計画に基づいた予算案について 4. 推薦入試1期について 5. 外国人留学生入試1期について 6. 文化祭について 7. 卒業研究展について 8. 学部に関連する大学の動向について 9. 研究活動の不正防止について 10. その他
2021年12月14日	1. 「キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー」の振り返りについて 2. 推薦入試2期・A0入試2期の判定結果について 3. 2022年度 造形学部の事業計画に基づいた予算案の提出について 4. 2022年度の授業方法についての調査(造形学部)の結果について 5. 2022年度の造形学部シラバスワーキンググループについて 6. 2022年度の科目担当者について 7. 造形学部の委員選出母体の見直しについて 8. 卒業研究展について 9. 学部に関連する大学の動向について 10. その他
2022年1月6日	1. 2021年度大学入学共通テスト担当者について 2. 卒業研究展について 3. その他
2022年2月8日	1. 一般入試A日程等の入試状況 2. 2022年度造形学部事業計画案について 3. 各コースの卒業研究発表会について 4. コース分けの進捗状況について 5. 卒業研究展について 6. その他

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2021年度も継続されるであろうオンライン授業について、さらに検討し、情報を共有していく。また、2021年度限定で「タイムシフト科目」を実施する。結果を検証し、継続の可能性についても探っていく。 【大】 2020年度実施できなかった英語運用能力評価協会のテストでクラス分けを行う。実施結果を検証し、さらに2022年度の実施に向けて準備をする。ほかの外国語についても適正な授業運営が叶うよう検討していく。 【共】 継続課題として、本協議会が扱うべき範囲と事柄を明確にする。また、資格関連科目のうち、本協議会が関与するものについて再検討する。 【共】 オープンキャンパス、文化祭、高校訪問等への参画の方法について検討する。 【共】 2020年度は「文化学園大学・教職研究会」を初めてオンラインで実施したが、この形式での開催にも意義があることがわかった。2021年度に向けてさらに開催時期・形式を検討していく。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2020年度に続き、オンライン授業を円滑に運用することに注力した。オンライン授業に特化したアンケートによって学修効果や担当教員の負担感などを把握した。加えて時限措置として「タイムシフト科目」を実施した。これについても受講学生・担当教員双方にアンケートを実施し、結果を検証した。非常勤講師・副手も参加する情報交換会を各学期の開始前に開催した。 【大】 英語運用能力評価協会のテストによるクラス分けを実施した。2020年度はオリエンテーションが中止になり、実施できなかったものである。 【共】 この課題については、2021年度も十分な取組みができなかった。2022年度以降の課題とする。 【共】 オープンキャンパスが対面形式では開催されなかったため、2021年度も積極的な参画を見送った。2022年度のオープンキャンパス開催状況を見ながら検討していく予定である。 【共】 12月12日に「第8回文化学園大学・教職研究会」をオンラインで実施した。活発な意見交換が行われ、有意義な研究会となった。 【共】 <p>点検評価</p> <p>2021年度も新型コロナの感染拡大が収まらず、オンラインが授業形態の中心となった。結果として2019年度からの課題として掲げている項目については十分な取組みができないものも多かった。それは2022年度以降へ引き継いでいくこととする。また、時限的な措置として「タイムシフト科目」という新しい試みを実施した。外国語科目についてはある程度適正な履修者数での授業運営ができた。</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 新型コロナの感染拡大状況によって授業形態が変わる可能性があり、その中で最善の授業が運営できるよう情報を共有していく。本格運用する「タイムシフト科目」について効果を検証する。対面授業の中でGoogle Classroomをどう活用していくかを検討する。 新しい試みとしてクラス分けを行うにあたり、Google Classroomを利用する。 継続課題として、本協議会が扱うべき範囲と事柄を明確にする。また、資格関連科目のうち、本協議会が関与するものについて再検討する。 オープンキャンパス、文化祭、高校訪問等への参画の方法について検討する。 「文化学園大学・教職研究会」の開催を2022年度も継続していく。形式は未定。 【大】

■検討組織名：学部共通科目協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月1日	1. 2021年度新メンバーと研究室体制 2. 委員会報告 3. 小グループ報告 4. タイムシフト科目について 5. 英語クラス分けテストについて 6. 小グループ編成について
2021年4月2日	学部共通科目協議会オンライン授業説明会 2021年度の授業開始に先立ち、授業運営やオンライン授業についての情報交換を行った。協議会メンバーと総合教養・外国語科目非常勤講師が参加した。
2021年5月11日	1. 委員会報告 2. 時間割で科目が重複している件について 3. 英語クラス分けについて 4. 「タイムシフト科目」の公欠について
2021年6月8日	1. 委員会報告・審議 2. 小グループ報告 3. 「タイムシフト科目」の履修者数について 4. その他 「濃厚接触者」の定義について
2021年7月13日	1. 委員会報告 カリキュラム変更について、新入留学生懇談会について、学生によるカリキュラム・授業改善アンケートについて、紀要の登録について 2. 小グループ報告 「タイムシフト科目」について 3. その他 留学生の一時帰国について
2021年9月7日	1. 委員会報告 後期追加履修登録について、禁煙啓発活動に関するアンケートについて、オープンキャンパスについて、就職内定率について、全学FD・SD研修会「秋の分科会」について 2. 小グループ報告 学生対象のアンケートについて、2021年度前期科目の振り返りと後期科目の展望について、オンライン授業情報交換会について
2021年9月21日	学部共通科目協議会オンライン授業情報交換会 後期授業に向けて、協議会メンバーと総合教養科目・外国語科目非常勤講師の情報交換を行った。
2021年10月12日	1. 委員会報告 2022年度授業日程（案）について、面談等の学生支援について 2. 小グループ報告 教員対象アンケートについて
2021年11月9日	1. 委員会報告 2022年度授業日程（案）について、「タイムシフト科目」について 2. 小グループ報告 教員対象アンケートについて、教職におけるカリキュラム改定について、出席管理について
2021年12月14日	1. 委員会報告 教職関連科目のカリキュラム改定について、2022年度授業日程（案）と授業形態について、学生会サミットについて、2021年度「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について 2. 小グループ報告 2022年度の授業形態について、教員対象アンケートについて、教職におけるカリキュラム改定について、英語の授業体制について 3. その他 授業体制に関する意見交換、シラバスワーキンググループメンバーについて
2022年1月6日	1. 委員会報告 後期科目の追加登録について、2022年度「タイムシフト科目」について、「コラボレーション科目」について、2021年度「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について 2. 小グループ報告 2022年度「タイムシフト科目」について、TOEIC試験について 3. その他 履修登録の問題、オンデマンド授業準備用ブースについての意見交換
2022年2月8日	1. 委員会報告 2022年度履修登録について、「コラボレーション科目」の再検討について、進路調査について 2. 小グループ報告 教員対象アンケートについて、2022年度「タイムシフト科目」について、オンライン情報交換会について
2022年3月16日	学部共通科目協議会情報交換会 専任・非常勤講師・副手25人の出席者を得て開催した。 1. 2022年度授業体制 2. Google Classroomの活用方法 3. 対面授業時のGoogle Classroomの活用 4. オンラインとの併用を想定した授業運営

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度から国際文化・観光学科の入学定員数が10人増え60人に、国際ファッション文化学科は20人増え140人となるため、教育環境などの整備を図る。 2. 収容定員数増加に備えて、学部の特徴の明確化を図る。 3. 新型コロナの感染拡大の状況によっては再びオンライン授業が中心となることが想定されるため、授業に関して更なる工夫を検討する。 4. 学生の個別指導を充実し、就職への意識を高め、各学科でのインターンシップへの参加率25%を目指す。就職内定率は90%を維持する。 5. チューター活動を含む留学生へのサポート体制を工夫する。日本語指導、大学生生活全般にわたるサポート等、きめ細かな指導などをさらに行う。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際ファッション文化学科は実習室を1つ増設できたが、まだ十分とは言えない。国際文化・観光学科は、観光分野の教員の補充に関しては適任者が見つからず補充できなかった。 2. コロナ禍で本格的に検討する段階には至っていない。 3. 新型コロナ感染拡大のため、全面的に対面授業の実施はできなかったが、曜日によって学生が出校できるようにした。また、オンラインと対面の併用型のハイブリッドの形などを利用して授業実施に工夫をした。 4. 新型コロナ感染拡大の影響のため実施されなかった。 5. チューター活動をオンラインによる「留学生交流会」とし、週1~2回留学生と日本人学生の交流ができる体制を整えた。授業以外の留学生への日本語ケアは、担任・副担任を中心に行った。また必要があるときには学生相談室の協力も得ることができた。 【大】
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 引き続き国際文化・観光学科と国際ファッション文化学科の定員数増加に対応するために教育環境などの整備を図る。 2. 収容定員数増加に伴い学部の特徴の明確化を図る。 3. 学生の個別指導を充実し、就職への意識を高め、各学科でのインターンシップへの参加率25%を目指す。就職内定率は90%を維持する。 4. オープンキャンパスの工夫など学生募集に対して検討する。 5. コロナ禍の影響がまだ続くと思われるため、更なる学生へのケアに各学科が注力する。 【大】

■検討組織名：国際文化学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年5月15日	1. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」について 2. 学内研究発表会について 3. オープンキャンパスについて 4. 新型コロナの感染拡大注意喚起について 5. その他
2021年6月10日	1. 学内研究発表会について 2. 2022年度指定校と日本語教育機関指定校について 3. 文化学園大学杉並高校大学見学会について 4. オープンキャンパスについて 5. 新型コロナ感染症に関して感染予防の注意喚起について
2021年6月30日	1. 国際ファッション文化学科のカリキュラム改定（案）審議 2. 6月20日のオープンキャンパスについて 3. 9月24日の学内研究発表会について
2021年9月7日	1. 国際ファッション文化学科カリキュラム改定審議 2. オープンキャンパスについて 3. 文化祭について 4. 学内研究発表会について 5. その他
2021年10月23日	1. 学生支援委員会より報告 2. 学内研究発表会について 3. オープンキャンパスについて 4. 国際文化・観光学科の「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」（9月25日）実施について 5. A0入試1期（10月17日）について 6. 後期授業について
2021年11月25日	1. 就職支援委員会より情報共有のお願い 2. 研究倫理の再確認について 3. 推薦入試について 4. 来年度の授業方針について 5. 今後の日程について 6. 小平キャンパスについて
2022年1月24日	1. 卒業イベント終了について 2. 入試関係について 3. 卒業研究提出状況について 4. 卒業研究発表会について 5. 3つのポリシーについて
2022年2月25日	1. 外国人留学生入試2期終了について 2. 担任・副担任一覧とオリエンテーションスケジュールについて 3. 卒業生の就職支援体制について 4. 退職者と送る会について 5. シラバスと成績入力の締め切り日について
2022年3月30日	1. 応用健康心理学科について 2. 入学予定者数について 3. 入学式について

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員による学生の学修成果の点検と評価から得られた結果をもとに、カリキュラムの充実を図る。 2. 学生のラーニングポートフォリオ（以下「LP」）を継続して取り組み、PDCA サイクルに則った学生の意識の涵養をはかるとともに、教員によるティーチングポートフォリオ（以下「TP」）を作成し、教員の教育活動の改善に取り組む。 3. クラスの担任・副担任及び、学科会議を通して学生の学修全般における情報を共有し、学修意欲の向上、就職支援につなげる。 4. 学生のボランティア精神を育成するために製作実習で学んだ技術を生かし、社会貢献活動として文化祭におけるバザーや学外のイベント等への参加を推進していく。 5. 短期大学部が所有している標本や資料の保存について検討し、データ化を進める。 【短】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の提出課題とレポート等について教員による学修成果の点検と評価から得られた結果をもとに、カリキュラムの修正を行った。修正後のカリキュラムをもとに学生が個々にキャリアプランを掲げ、ファッション分野 3 領域から横断的に科目を履修できる体制を維持し、就職等を見据えた実学的教育を継続して推進することができた。 2. LP をキャリア形成教育科目の 4 科目に加えて、実習系科目にも拡大して実施した。キャリア形成教育科目では、ルーブリックを示し意識の変容をレポートやリアクションペーパーを通して可視化し、自己評価と教員評価を評価得点のチャートにしたことにより、学びの過程を省察することができ、主体的な学びからキャリアデザインの実践教育の充実が図れた。実習系の科目では、LP 用のシートを学生に配付し、課題製作の各工程の項目ごとに学ぶ目的、実習の計画、到達目標を記入させることで実習内容について意識させ、各項目の実習終了後に計画状況、目標の達成度について振り返り、省察を行うため、教員からの評価を受けてから次の工程の実習に入るので課題製作に取り組む姿勢を向上させることができた。教員は、学生のルーブリックや LP 用のシートの評価とともに自己の TP の振り返りや、「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」等の結果をもとに指導力の向上と教育活動の改善に取り組むことができた。 3. クラス担任、副担任は、キャリア支援担当教員として学生に密接に関わり、学生の就職支援と学修意欲を向上させることができた。2020 年度に引き続き、2021 年度も新型コロナの感染拡大の影響を受け、2 年生の「キャリアデザイン実践編Ⅱ」「キャリアデザイン展開編」は、学内で外部講師の特別講義と卒業生の講話を受講させ、身近なロールモデルを提示したことで、キャリアプランや就職に対する意識の向上を図ることができた。新型コロナの感染が落ち着いた 12 月 14 日に「アパレル生産流通論」「キャリアデザイン展開編」「企業研修」の校外授業として日本橋横山町の間屋街の見学を実施し、学生は流通の現場を学ぶことができた。 4. 2021 年度の渋谷区文化プログラム大学連携企画のイベントには、2019 年度に参加した際に製作した 5 体のワンピースを 8 月 24 日～9 月 3 日の期間に渋谷区役所 15 階で展示するという方法で参加した。新型コロナの感染拡大の影響で様々なイベントが中止になる中、「NPO 法人こども環境活動支援会」の「Baton Bag Project」のバッグの装飾には、2 年生 39 人全員が継続して参加した。2 年間の製作実習で習得した技術を生かし、装飾の図案や装飾に用いる技法についての話し合いや製作活動を通して、学生のコミュニケーション能力の向上とボランティア精神の育成を図ることができた。 5. 2019～2020 年に短期大学部が所有している標本や資料について和装文化研究所と共同でデータ化した。今後も残りの資料の保存とデータ化の作業を継続していく。 6. 2021 年度 2 年生在籍の 39 人全員を卒業させることができた。 【短】
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>2021 年度をもって、短期大学部が閉学したため 2022 年度への課題はなし</p>

■検討組織名：短期大学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月1日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度第2ブロック・短大部ファッション学科研究室役割一覧表（案）について審議 2. 2021年度クラス担任・副担任について報告 3. 委員会・係りからの報告
2021年5月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度短期大学部バザーについて審議 2. 「キャリアデザイン展開編」の実施内容について審議 3. 2021年度学内研究発表会実行委員選出について審議 4. パターンメーキング3級試験監督選出について審議 5. パターンメーキング2級試験会場貸出について審議 6. 担任・副担任の各クラスの状況について報告 7. 委員会・係りからの報告
2021年6月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担任・副担任の各クラスの状況について報告 2. 委員会・係りからの報告
2021年7月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究室内備品・書類の整理日程について審議 2. 担任・副担任の各クラスの状況について報告 3. 委員会・係りからの報告
2021年9月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担任・副担任の各クラスの状況について報告 2. 委員会・係りからの報告
2021年10月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度予算『授業用・教員研究費』に係る備品等購入計画について審議 2. A0入試1期面接教室借用依頼について審議 3. 授業・行事について報告 4. 担任・副担任の各クラスの状況について報告
2021年11月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担任・副担任の各クラスの状況について報告 2. 委員会・係りからの報告
2021年12月9日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度コラボレーション科目実施について審議 2. 担任・副担任の各クラスの状況について報告 3. 委員会・係りからの報告
2022年1月27日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 短期大学部バザー関係の整理について審議 2. 台湾稻江高級護理家事学校短期研修で使用した教材等について審議 3. 担任・副担任の各クラスの状況について報告 4. 委員会・係りからの報告
2022年3月4日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度以降のツイッターの取り扱いについて審議 2. 担任・副担任の各クラスの状況について報告 3. 委員会・係りからの報告

審 議 機 関

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナ感染防止を図りつつ、大学院教育として対面授業とオンライン授業の長所を組み合わせた新たな教育体制を構築し、IT活用とオンラインを媒介した特定課題研究、社会人大学院生の受け入れ、外部機関を活用した実践的教育を具体化する。 2. 新型コロナの影響による留学生の減少に対処するため、大学院進学希望の学部学生が学部在学中に大学院の授業を受けられる条件の整備を進め、学内生の大学院進学を増加を図る。 3. 大学院における若手教員の確保を進めるため、本学教員が本大学院で学位取得できる仕組みの導入に向けて課題を整理し、継続検討する。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度の大学院教育は、新型コロナの感染対策を講じたうえでの対面授業及びオンラインの特徴を生かした授業や中間発表会などの行事を展開して、円滑に進行できた。その結果、2020年度は博士前期課程及び修士課程において6人の留年者を出したが、2021年度は修了予定者全員が修士論文を提出し、修了となった。IT活用とオンラインの活用及び特定課題研究の先駆けとなる新しい研究への取り組みが行われた。一方、社会人大学院生の受け入れ及び外部機関の活用については、新型コロナの影響を受けて具体化はできなかった。 2. 2021年度は学部の新カリキュラムが完成年度となることから、まずは学生の進学動向を注視した。その結果、学部の新カリキュラムは学部卒での就職を明確にしており、大学院への進学希望者は少ないことが判明した。このことから学部教育と大学院教育の接続性を高めるカリキュラムの工夫が必要となった。 3. 2021年度は被服学専攻で3人、生活環境学専攻で2人を大学院担当教員として加えて、教育活動を進めることができた。本学教員が本大学院で学位取得できる仕組みづくりについては、教員の働き方改革との関連から複雑な課題が存在し、検討を中止した。その代わりに学園附属の各研究所で公募している研究奨励金等の利用により、研究を活性化させることで大学院教員の増加を図ることとした。 <p>以上、2021年度の課題に対して実行できたのは70%であった。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学部教育と大学院教育の接続性を高める策、留学生の増加策、及び社会人大学院生の受け入れ策等を検討し、大学院入学者の増加を図る。 2. 大学院入学時から学位取得までの学修進捗をセルフチェックする施策を見直し、円滑な大学院教育を実施する。 3. 大学院における若手教員の確保に向けて、学内研究助成金の活用による研究を推進するとともに、本学教員が本大学院で学位取得できる仕組みの導入を継続検討する。 【大】

■検討組織名： 国際文化研究科委員会

報告者：中沢 志保

提出日：2022年3月17日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度においては、国際文化専修のカリキュラムに更なる検討を加える。具体的には、比較文化研究の分野において、日本史及びその関連分野の強化を図りたい。また、本学における異なる分野の学部・学科や他大学からの進学者及び留学生の受け入れを念頭に置いた教育・指導体制の更なる充実を図る。 2. 国際文化専修の設置科目の見直しを検討し、削除する科目と新たに設置する科目を明確にする。 3. 国際文化研究科の担当教員が、論文発表・学会報告・著書の発行などの形で、研究成果を出していくよう勧めていく。 4. 修士課程修了後の大学院生の進路についての指導を強化する。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度においては、国際文化専修のカリキュラムの見直しに力点を置いた。比較文化と観光文化を軸にする国際文化専修の特徴を際立たせ、これまで手薄であった日本史における研究分野を充実させるため、「日本史学特論」を新設した。本科目は、2022年度より開講される。本学における異なる分野の学部・学科や他大学からの進学者及び留学生の受け入れを念頭に置いた教育・指導体制に関しては、今後も継続して検討していきたい。 2. 比較文化と観光文化を軸にする国際文化専修の特徴を際立たせるため、企業広告並びに企業広報に関連する科目を削除し、新たに日本史学の科目を設置した。 3. 国際文化研究科の担当教員が、それぞれの分野で研究を進め、成果を発表した。それらの成果は、関連する学会などでの報告や学術誌への投稿等で明示された。 4. 2021年度の修了生全員が就職を決めた。 【大】
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度においては、国際文化専修のカリキュラムに更なる検討を加える。特に観光文化の分野において、担当教員の変更を含めて再検討を行う。また、引き続き、本学における異なる分野の学部・学科や他大学からの進学者及び留学生の受け入れを念頭に置いた教育・指導体制の更なる充実を図る。 2. 2021年度に全面改定された健康心理学専修のカリキュラムの評価を行う。 3. 国際文化研究科の担当教員が、論文発表・学会報告・著書の発行などの形で、研究成果を出していくよう勧めていく。 4. 引き続き、修士課程修了後の大学院生の進路についての指導を強化する。 【大】

■検討組織名：生活環境学研究科委員会・国際文化研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月20日	1. 2021年度大学院研究科委員会構成員、2. ティーチングアシスタント採用、3. 修了年次生の指導教員、4. 単位認定、5. 大学院セミナーについて、6. 学生異動、7. 休講科目、8. ENSADとのダブルディグリー協定に基づく派遣学生、9. 2022年度大学院入試の科目と出題者、以上9項目を審議し、承認。10. 科学研究費助成金結果、11. 根岸愛子特別奨学金&大学院特別奨励金、12. 大学院研究科委員会日程、13. 大学院特別講義A/Bについて報告。 【被服環境学専攻委員会】1. 修了年次生の指導教員を審議し、承認。
2021年5月18日	1. 被服学特別研究の副指導員追加を審議し、承認。2. 9月修了予定者の修士論文の提出日程を確認
2021年6月15日	1. カリキュラム変更、2. 2022年度大学院入試におけるオンライン試験の実施、3. 博士論文・修士論文中間発表以上3項目を審議し、承認。4. 学則変更については審議を保留。5. 大学院研究科委員会の担当教員についての規程等を報告
2021年7月20日	1. 7月提出分の修士論文の審査教員、2. 科目担当教員の変更、3. 学則変更の承認方法、以上3項目を審議し、承認。4. ENSADダブルディグリー学生1人の在学期間変更、5. 2022年度大学院入試の日程、6. 中間発表会の実施要領、7. 研究倫理教育の予定について報告。
2021年9月21日	1. 7月提出の生活環境学研究科5人の最終審査及び修了判定、2. 指導教員の追加、3. 国費外国人留学生の受け入れ、4. 非常勤講師の退職、以上4項目を審議し、承認。5. 学則変更の成立を確認。6. 修士論文の説明会に関する資料及び日程等について報告・提案
2021年10月26日	1. グローバルファッション専修1人の指導教員、2. 2022年度の科目担当、3. ティーチングアシスタント1人の辞退、以上3項目を審議し、承認。4. 文化祭の準備状況を報告。5. 修士論文説明会の資料を確認。 【被服環境学専攻委員会】1. 担当教員の変更、2. 学生異動、3. 指導教員の追加について審議し、承認。4. 学位論文の事前審査の日程について確認。
2021年11月16日	1. カリキュラム及び担当変更について審議し、承認。2. 2022年度休講科目を確認。
2021年12月1日	1. 指導教員の変更、2. 修論発表会の形式、3. 科目担当教員の変更、以上3項目を審議し、承認。4. シラバスチェックの方法とワーキンググループメンバー、5. 2021年・2022年度年間行事担当者について協議し、承認。6. 2022年度大学院授業方針の意見集約を報告。
2022年1月25日	1. 修士論文審査教員、2. 科目担当教員の変更、3. 規程の改定、以上3項目を審議し、承認。4. 修士論文抄録提出及び発表会について周知。5. 2022年度大学院研究科委員会の日程(案)を提示。 【被服環境学専攻委員会】1. 博士論文1件について審議し、受理。2. 審査教員及び公聴会・口頭試問日程、3. 学生異動、以上3項目を審議し、承認。
2022年2月16日	1. 2021年度修士論文及び修了作品の最終審査及び修了判定、2. 2022年度の特任教員、3. 学生異動、以上3項目を審議し、承認。4. 修士論文発表会の準備状況、5. 大学院特別講義A/Bの内容を報告。
2022年3月1日	【被服環境学専攻委員会】1. 博士論文1人の最終審査及び修了判定を審議し、1人に学位授与を承認。

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：2022年4月1日

開催年月日		会議等の開催記録
2021年4月1日	審議事項 報告事項	1. 学生異動について 2. 研究生・科目等履修生入学許可について 3. 教員の海外研修について 1. 委員会報告 2. 2021年度新入生数について 3. 2022年度募集用の入学案内書等について 4. 2021年度入学式・2020年度入学生 入学歓迎式・オリエンテーション等について 5. 2021年度総合消防訓練について 6. 学生異動について (報告)
2021年5月11日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 公欠について 1. 委員会報告 2. 2022年度入試関係について 3. 学生異動について (報告)
2021年6月8日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 公欠について 4. 特別研究員の受入れについて 5. 特別留学生入学辞退について 1. 委員会報告 2. 学生異動について (報告) 3. その他 1) 文化学園大学杉並高校見学会の中止について 2) 2021年度教育改革支援助成金事業について 3) 研修会について
2021年7月13日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 研究生入学許可について 1. 委員会報告 2. 2022年度入試関係について 3. 前期定期試験について 4. 教員の夏季休暇等について 5. 2021年度教員の国内外研修申請について 6. 学生異動について (報告)
2021年9月7日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 教員異動について 3. 学生異動について 4. 研究生入学許可について 1. 委員会報告 2. 2022年度入試関係について 3. 2022年度任期制助手の採用について 4. 学生異動について
2021年10月12日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 2021年9月卒業について 4. 特別留学生入学再延期について 5. 公欠審議について 1. 委員会報告 2. 2022年度入試関係について 3. 2022年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について 4. 2022年度副手の採用申請について 5. 学生異動について (報告)
2021年11月9日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 公欠審議について 1. 委員会報告 2. 2021年度後期授業について 3. 2022年度入試について 4. 学生異動について (報告)
2021年12月14日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 公欠審議について 1. 委員会等報告 2. 2022年度入試関係について 3. 学生異動について (報告)
2022年1月6日	審議事項 報告事項	1. 委員会 1. 委員会報告 2. 2022年度入試関係について 3. 学生異動について (報告)
2022年2月8日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 教員異動について 3. 学生異動について 1. 教員異動について [正教授会 (第8条教授会) 報告] 2. 委員会報告 3. 2022年度入試関係について 4. 学生異動について (報告)
2022年3月4日	審議事項 報告事項	1. 特任教員について 2. 学生異動について 3. 学則変更について 4. 2021年度卒業判定について 5. 2021年度資格判定について 1. 委員会報告 2. 2022年度入試関係について 3. 学生異動について (報告)

■検討組織名：文化学園大学短期大学部教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：2022年4月1日

開催年月日		会議等の開催記録
2021年7月27日	報告事項	1. 在学生の状況について 2. 授業体制について（前期のオンライン授業、対面授業の状況） 3. 「キャリアデザイン展開編」について 4. 社会貢献活動について（Baton Bag Project、文化祭） 5. 前期ウインドウ展示について 6. 「総合演習（チームによるブランド企画）」「総合演習（卒業制作）」について
2022年2月22日	報告事項	1. ファッション学科の卒業に向けての状況について 2. 「総合演習（チームによるブランド企画）」「総合演習（卒業制作）」について

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4. 「コラボレーション科目」の検討 5. 授業体制の諸問題に関する検討 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「文化学園大学学則・文化学園大学短期大学部学則及び文化学園大学・文化学園大学短期大学部学費納入に関する細則（改定案）」、「就職委員会規程（改定案）」、「文化学園大学・文化学園大学短期大学部 新型コロナウイルス感染症の直接的・間接的な影響で、家計が急変した世帯の学生に対する授業料減免支援規程（改定案）」、「文化学園大学の教員の任用に関する規程（改定案）」、「文化学園大学・文化学園大学短期大学部 外国人学生・外国人留学生規程の廃止とそれに伴う文化学園大学学則改定」「講師の職が記載されている規程等の改定とそれに伴う文化学園大学学則改定」、「現代文化学部と記載されている規程等改定とそれに伴う文化学園大学学則改定」、「文化学園大学・文化学園大学短期大学部外国人学生・外国人留学生が条文に記載されている規程の改定」、以上について審議・承認後、教授会に提案した。審議においては、他の規程や学則との整合性を図るとともに、事前回覧で寄せられた意見等を検討、必要に応じて関連部署との間で確認・修正作業を行った。 【共】 2. 2022年度授業日程については、2021年度授業日程を基本に、定期試験期間は前期授業終了後とし、祝祭日の授業実施は避け、授業開始に伴う Google Classroom 案内日程、補講日の日数等を考慮しながら審議・決定した。 【大】 3. (1) 服装学部ファッションクリエイション学科、同ファッション社会学科、造形学部デザイン・造形学科、同建築・インテリア学科、国際文化学部国際ファッション文化学科、服装学部及び造形学部デザイン・造形学科の教職に関する専門科目のカリキュラム改定案について審議し承認後、教授会に提案した。審議の中では、文言の確認・修正等を行った。 (2) 後期追加登録について、2022年度は行わない予定だが、新型コロナの増減の状況を踏まえ、受講人数制限や教室の使用状況に応じて検討する。 (3) 再履修科目の登録については、2022年度から再履修登録に必要な料金の未納の防止、手続きの簡素化、履修登録期間の確保を目的に、再履修登録は Web で行い、別途再履修願の半券を担当教員に提出することで完了することとした。期日までに再履修願の半券の提出がない場合は履修が取り消されることを、オリエンテーションにおいて学生に知らせることを確認した。 【共】 4. コラボレーション科目については、近年、開講科目が減少していることを受け、各学科及び学部共通科目協議会から意見を募り、2022年度に持ち越し検討することとした。 【共】 5. (1) 「タイムシフト科目」について、各学科や学部共通科目協議会から意見を募り、当該科目は教育上の効果が高いことを確認した。 (2) オンラインで授業を受講する教室不足、Wi-Fi 環境の整備が今後の課題であることを確認した。 【共】
<p>次年度への課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4. 「コラボレーション科目」の検討 5. 時間割の配置の検討（「タイムシフト科目」含む） 6. 授業体制の見直しに伴う諸問題に関する検討 【大】

■検討組織名：教務委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月13日	1. 委員会名簿確認 2. 委員会日程の確認 3. 2020年度自己点検・評価報告書（修正案）の確認
2021年5月25日	1. 「文化学園大学学則・文化学園大学短期大学部学則」及び「文化学園大学・文化学園大学短期大学部学費納入に関する細則」（改定案）の審議 2. 就職委員会規程（改定案）の審議（1～2 2021年6月8日教授会承認）
2021年7月27日	1. 「文化学園大学学則・文化学園大学短期大学部学則」及び「文化学園大学・文化学園大学短期大学部学費納入に関する細則」（改定案）の審議 2. 「文化学園大学・文化学園大学短期大学部 新型コロナウイルス感染症の直接的・間接的な影響で、家計が急変した世帯の学生に対する授業料減免支援規程」（改定案）の審議 3. 2021年度授業日程（後期変更案）の検討 4. 2021年後期履登録の検討（1～2 2021年9月7日教授会承認）
2021年9月14日	1. 服装学部 ファッションクリエイション学科カリキュラム改定（案）の審議 2. 服装学部 ファッション社会学科カリキュラム改定（案）の審議 3. 造形学部 デザイン・造形学科カリキュラム改定（案）の審議 4. 造形学部 建築・インテリア学科カリキュラム改定（案）の審議 5. 国際文化学部 国際ファッション文化学科カリキュラム改定（案）の審議 6. 「文化学園大学の教員の任用に関する規程」（改定案）の審議 （1～6 2021年10月12日教授会承認）
2021年10月19日	1. 2022年度授業日程案の検討 2. 2022年度授業形態の検討 3. 「文化学園大学・文化学園大学短期大学部 外国人学生・外国人留学生規程廃止と学則改定」の審議（3 2021年11月9日教授会承認）
2021年11月30日	1. 服装学部及び造形学部デザイン・造形学科の「就職に関する専門科目」カリキュラム改定（案）の審議 2. 学則・規程の改定の審議 3. 2022年度授業日程案の検討 4. 2022年度授業形態の検討（1～2 2021年12月14日教授会承認）
2021年12月21日	1. 「コラボレーション科目」の検討 2. 授業体制の諸問題に関する検討 3. 2022年度授業日程案の検討 4. 2022年度授業形態の検討（3 2022年1月6日教授会承認）
2022年1月11日	1. 2022年度履修スケジュールの検討 2. 「コラボレーション科目」の検討
2022年2月22日	1. 委員選出母体群（案）について 2. 「コラボレーション科目」の検討 3. 2021年度自己点検・評価報告書（教務委員会・案）について
2022年3月8日	1. 文化学園大学短期大学部を含む規程について 2. 「コラボレーション科目」の検討 3. 2021年度自己点検・評価報告書（教務委員会・案）について

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活の現状把握と学生支援のあり方についての検討 在学生の健康管理体制を徹底する。新型コロナの収束を待ち、安全に登校できる時期を見ながら健康診断を実施し、全学生の健康状態を把握する。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 特に問題になりつつある自宅待機の留学生の孤独感や、発達障害学生の問題を早期発見し、対策を進める。 3. 学内及び周辺の巡回と改善 学内全面禁煙を受け、新型コロナの収束を見つつ、学内の巡回、禁煙啓発活動の企画・実施をする。 4. 学生への経済支援 様々な奨学金の告知を頻繁に行い、支援を必要とする学生に丁寧に指導する。新型コロナの感染拡大による経済事情の悪化で困窮する学生の支援に努める。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康診断を4月(1年生と卒業年次生)、9月(2,3年生)に実施し、委員会・学生課・医務室の協力により2021年度は89.5%の高受診率となった(2020年度39.2%)。学生の健康管理は十分できたと評価する(資料：2021年度大学・短期大学部・大学院健康診断結果)。学生生活に対する学生の意見などをくみ上げる学生会サミットを開催し、学生の要望に対して学園としてかなりの部分に応えることができた(資料：2021年度サミット案件に関する回答)。新型コロナ感染拡大のため、2021年度のクラブ活動・課外活動について十分な支援ができなかったが、感染が収まった時期にリーダーズトレーニングを対面で実施することができ、参加人数は71人と多く、2022年度の活動計画に向けて議論が活発にできた(資料：リーダーズトレーニングについて)。 2. 学生生活支援室と学生支援委員会、学生課が協力し、学生の健康・学業・心的支援を行った。特に学生生活支援室が学生、科目担当者、担任・副担任、保護者との連携を担い、問題が大きくなる前に対処し、その貢献度は評価できる。人間関係、対面授業・オンライン授業に対する相談が多かったが、相談内容の把握はできており、カウンセラーが個々に対応している(資料：なんでも相談室月別利用状況4月～2022年2月)。新入留学生懇談会を実施し、抱えている問題点の聞き取りを行った結果、未入国の留学生の対面授業に参加できない不安が問題となった。単位取得については担当教員が不利にならないようにするものの、根本的な支援とはならず、早く日本へ入国させることが不可欠である(資料：2021年度新入留学生懇談会結果報告)。 3. 4月1日より学内全面禁煙とし、学内美化・喫煙マナーの指導のための巡回を学生課・警備員が適宜行った。学生と協力して禁煙啓発活動を企画するため、禁煙についてのアンケート結果を学生会と学生支援委員会で検討し、学園全体での環境改善に取り組んだ。(資料：禁煙啓発活動アンケート結果) 4. 奨学金のお知らせは頻繁に行い、2次募集、3次募集と丁寧に告知をした。様々な政府・大学の給付型奨学金が充実しているため、条件の合致する学生は貸与型奨学金を含め、支援は手厚く行うことができた。「学生等の学びを継続するための緊急給付金」の募集を頻繁に行い、新型コロナ感染拡大のためアルバイト収入の減少により困窮する学生に対して、条件に合致する申請者はすべて支援できたと評価する。 【共】
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活の現状把握と学生支援のあり方について 新型コロナの影響が続くため、学生の健康管理を十分把握する。課外活動・クラブ活動の支援を充実させる。学生生活に対する学生の要望に応える支援体制を強化する。 2. 学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談などの対応について 学生の学業、人間関係、家計、生活全般における相談に、科目担当者、担任・副担任、保護者、学生生活支援室の連携を強化して対応する。 3. 留学生に特化した問題の対応について 留学生の入国、学業、生活環境、アルバイトなどの問題点を特定し、対策を講じる。 4. 学内及び周辺的环境改善 学内全面禁煙を受け、学内の巡回を強化し、学生と協力し禁煙啓発活動の企画・実施をする。 5. 学生への経済支援 様々な奨学金の告知を頻繁に行い、支援を必要とする学生に丁寧に指導する。経済事情の悪化で困窮する学生の支援に努める。 【大】

■ 検討組織名：学生支援委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度実施予定の学生生活調査について 2. 総合学生生活委員会からの「禁煙啓発活動」の協力依頼について 3. 新入留学生懇談会について 4. 4月健康診断の受診率について 5. 学内全面禁煙の表示について 6. Wi-Fi強化教室の増設について 7. 2020年度高等教育の修学支援新制度について 8. 学生生活支援室からの報告
2021年5月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合学生生活委員会からの「禁煙啓発活動」の協力依頼について 2. 4月健康診断の受診率について 3. 学生生活支援室からの報告
2021年6月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合学生生活委員会からの「禁煙啓発活動」の協力依頼について 2. 学生支援委員会からの「禁煙啓発活動」の提案について 3. 新入留学生懇談会の結果について 4. 学内巡回・喫煙指導について 5. 学生生活支援室からの報告
2021年9月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「禁煙啓発活動」アンケートの集計結果について 2. 新入留学生懇談会の結果について 3. 学部2・3年次健康診断の受診率について 4. 日本学生支援機構奨学生数について 5. 文部科学省外国人留学生学習奨励費の募集（追加6か月）について 6. 学生生活支援室からの報告
2021年10月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「禁煙啓発活動」アンケートの集計結果について 2. 新入留学生懇談会の結果について 3. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度後期募集について 4. 学生生活支援室からの報告
2021年11月27日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「禁煙啓発活動」アンケートの集計結果について 2. 学生会サミットでの喫煙所に関する学生意見について 3. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度後期募集の結果について 4. 学生生活支援室からの報告 5. 9月実施の健康診断結果について
2022年1月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己点検・評価報告書について 2. 委員改選に伴う申し送り事項について 3. 学生等の学びを継続するための緊急給付金の申請について 4. 学生生活支援室からの報告
2022年2月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員改選に伴う申し送り事項について 2. 学生生活支援室との連携について 3. 総合学生生活委員会の議題について 4. 学生等の学びを継続するための緊急給付金の申請について 5. リーダーズトレーニングについて 6. 留学生の入国について 7. 学生生活支援室からの報告

■ 検討組織名：入試対策委員会

報告者：高橋 正樹

提出日：2022年3月30日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度オープンキャンパス・サマーオープンカレッジの実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 入学事前教育プログラムに関する検討 4. 2022年度オープンキャンパスのあり方の検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度に引き続き、新型コロナの影響により例年実施している方法でのオープンキャンパスは行えず、オンラインを併用したオープンキャンパスを実施した。具体的には、2021年度に入試を予定している受験生を対象とした、予約制によるWeb型5回と来場型2回のオープンキャンパスを実施した。Web型では、ライブ方式の学科紹介や入試説明、高校生がオンラインにて教職員・在学生と個別相談等が行えるプログラムを実施した。来場型では、新型コロナの感染防止対策に努めながら、学科紹介や入試説明、キャンパス見学ツアー、個別相談を行った。結果的に、Web型と来場型を合計して1181人の高校生と保護者が参加した。さらに、2020年度に引き続き、大学紹介及び教員による学科紹介の動画や、選抜別入試説明、A0入試に特化した説明動画、施設紹介動画を大学ホームページ上で公開する等を行い、大学ホームページでの動画コンテンツを充実させた。これらは概ね好評であった。例年実施しているオープンキャンパスでの「公開授業」は新型コロナの影響により中止としたが、高校生が大学の授業体験をするサマーオープンカレッジは、来場型及びWeb型にて行った。その結果、328人の高校生が参加した。12月に行っている進学相談会については、毎年この時期に実施している大学イベントがオンライン配信になったこともあり実施はせず、2020年度と同様、新高校2・3年生を対象とした進学相談会として3月に実施した結果、249人の高校生と保護者が参加した。結果、今回の取り組みは、「公開授業」に関して課題を残しつつも概ね成功と言える。 2. 2012年度より全学的・組織的に実施しており、2021年度も教員1人あたり1校以上の訪問及び職員による訪問を計画していたが、2020年度と同様、新型コロナの影響により中止とした。結果、実施方法を含め検討の余地が見られた。 3. 入学後の教育内容に関連する事前教育プログラムを実施した。プログラムへの申し込み率は2020年度と同様約100%と良好である。プログラムの開始時と終了時の比較では全学科で基礎学力の向上等がみられた。結果、今回の取り組みは成功と言える。 4. 2021年度オープンキャンパスの実施内容を踏まえ、入学志願者の増加へつなげる工夫について検討を行った。結果、2022年度も当面の間、予約制による来場型と遠方者等を対象としたWeb企画を併用して開催することが決定した。また新型コロナの感染者が爆発的に増加した場合に備え、Web型での開催も準備した。全7回(4月～9月)を予定しており、2021年度は高校1、2年生へのアプローチが少なかったことに鑑み、その対処方法として4～7・9月は来場型において2年生も対象とすること、8月は1、2、3年生を対象とすることが決定した。また、Web企画ではオンラインによる学科紹介や入試説明、個別相談を実施する予定である。2021年度に一部対面で再開したサマーオープンカレッジは、2022年度は新型コロナの感染防止対策をとりながら対面での講座数を増やして実施の予定である。またオンラインでの講座も実施する。結果、今後に向けてよりよい検討が行えたと言える。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度オープンキャンパス・サマーオープンカレッジの実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 入学事前教育プログラムに関する検討 4. 2023年度オープンキャンパスのあり方の検討 <p style="text-align: right;">【大】</p>

■検討組織名：入試対策委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンキャンパスについて（4月実施回の内容確認） 2. 2020年度3月進学相談会について（報告） 3. A0入試説明動画の作成について 4. 高校訪問について
2021年5月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンキャンパスについて（5月・6月実施回の内容確認、4月実施回の報告） 2. 2021年度入学生対象の入学事前教育プログラムについて（結果報告）
2021年6月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンキャンパスについて（5月・6月実施回の報告、7月以降の実施回の内容等について検討） 2. 2023年度以降の入学生に向けた入学事前教育プログラムの取組みについて（内容等の検討）
2021年7月27日	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンキャンパスについて（7月実施回の報告、緊急事態宣言が延長になった場合の8月実施回の開催方法について検討） 2. サマーオープンカレッジについて（申込状況の報告） 3. 2022年度入学生対象の入学事前教育プログラムについて（内容確認）
2021年9月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンキャンパスについて（8月実施回の報告、9月実施回の内容確認） 2. サマーオープンカレッジについて（報告） 3. 2022年度オープンキャンパスの開催日程について（検討） 4. 2022年度サマーオープンカレッジの開催日程について（検討）
2021年10月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンキャンパスについて（9月実施回の報告） 2. A0入試1期〔総合型選抜〕について（報告） 3. 2022年度サマーオープンカレッジの実施方法・内容について（検討） 4. 2021年度3月進学相談会について（実施方法の検討）
2021年11月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 推薦入試1期〔学校推薦型選抜〕、外国人留学生入試1期について（報告）
2022年1月11日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度オープンキャンパスの実施方法・内容について（検討） 2. 2022年度サマーオープンカレッジの実施方法・内容について（検討） 3. 2021年度3月進学相談会について（実施内容の確認）

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①テレワーク型を含む研修への検討②学部共通事前事後教育徹底の継続と日程・期間の検討。③コース単位報告会の日程・時間の検討。④各企業の状況に対応した柔軟な取り組みの検討。⑤公開報告会のオンライン(オンデマンド)実施と1,2年生の参加推進。 【大】</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1)就職支援 ①就職活動に消極的な学生支援強化に伴う担任・副担任との連携。②就職講座申込制継続による計画的な参加意識の向上。③スキル習得必須と思われる講座等の教員による積極的 学生誘導。④従来の方法と就職支援一課 Web 掲示板の機能充実と利便性向上及び学生への情報周知徹底の推進。⑤専門分野特化の企業開拓。⑥就職講座単位化要否の検討継続。⑦学内合同企業セミナー実施時期の検討。上記各活動のオンライン活用の推進を図る。 【共】 (2)キャリア支援 ①学部：キャリア形成教育科目との連携による企業見学や企業講師の講話取り入れの検討。短期大学部：企業見学実施の継続。②進路調査 Web 実施回答率向上の方法を検討。③3年以内卒業生の動向把握(紫友会連携、Gmailの半永久的使用)の検討。上記各活動のオンライン活用の推進を図る。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. ①新型コロナの感染対策を万全に行い規模を縮小して実施した。一部テレワークでの実施企業があった。②オンラインを併用し日程・期間の調整を行ったことで特に問題はなかった。③研修日程が分散した結果、全体での実施は難しく一部コース単位に集約して報告会を実施した。④研修日程の変更、中止となった企業の代替として新たな企業への依頼を行い柔軟に対応した。ただし学科により実習可能企業数に差が生じた。⑤感染状況や研修日程変更等により、報告書・アンケートの提出を代替えとした。 【大】</p> <p>2. (1)①担任・副担任との連携を継続し、コースによりキャリア支援教育を実施、意識付けを行ったが、対面機会減少で困難もあった。②オンライン実施で対応。参加意識の高い学生とその他の差が大きくメールの見逃しもあった。検討を継続する。③Google Classroomを活用し積極的に誘導を試みたが①と同様で困難な状況もあった。④メール配信とともにWeb掲示板が定着しており更なる浸透を図る。⑤今後も検討を続ける。⑥就職以外の進路もあり単位化は難しいが今後も検討を続ける。⑦オンラインで柔軟に実施を行った。今後も検討を続ける。オンライン化が定着しつつあると考える。 【共】 (2)①学部：新型コロナの収束後を見据え検討を継続。短期大学部：延期していた企業見学を実施した。②Web導入・Google Classroom活用は新型コロナが流行している中では有効であった。回答率向上のため、担任・副担任より未提出者に確認を行った。③今年度の取り組みは難しく検討を継続する。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①テレワーク型を含む研修形式の検討。②学部共通事前事後教育徹底の継続と日程・期間の検討。③コース単位報告会の日程検討。④参加企業増加と状況に対応した柔軟な取り組みの検討。⑤公開報告会のオンライン(オンデマンド)実施と1,2年生の参加推進。⑥報告書開示方法の整備。</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1)就職支援 ①就職活動に消極的な学生支援強化に伴う担任・副担任との連携②就職講座申込制とオンライン活用周知による参加意識の向上。③スキル習得必須と思われる講座等の教員による積極的 学生誘導。④就職支援一課 Web 掲示板の機能充実と利便性向上及び学生への周知徹底の推進。⑤専門分野特化の企業開拓。⑥就職講座単位化要否の検討。⑦学内合同企業説明会実施時期の検討。 (2)キャリア支援 ①キャリア形成教育科目との連携による企業見学や企業講師の講話取り入れの検討。②進路調査 Web 実施方法の整備と記入内容の精査。③3年以内卒業生の動向把握(紫友会連携、Gmailの半永久的使用)の検討。上記各活動のオンライン活用の推進を図る。 【大】</p>

■検討組織名：就職委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員長の決定について(造形・短大/未決定者フォローについて) 2. 2021年度活動計画について 3. 就職状況及び学生の活動状況について 4. その他(文部科学省・厚生労働省就職内定率調査、インターンシップ/就職ガイダンス)
2021年5月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告について(服装/キャリアアドバイザー予約、造形・現文/インターンシップ、短大/追跡調査・キャリア科目授業) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(2021年度活動計画)
2021年6月29日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告について(服装・造形・現文/インターンシップ、短大/未決定卒業生フォロー) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. インターンシップ 4. その他(2021年度活動計画、マイナビエントリー企業ランキング)
2021年7月27日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告について(服装・現文/インターンシップ、造形/業界セミナー・インターンシップ) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(インターンシップ参加数変更・ビジネスマナー講座)
2021年9月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告について(服装/デジタル化・進路調査カード、現文/学外インターンシップ・進路調査カード) 2. インターンシップについて 3. 就職状況及び学生の活動状況について 4. その他(マイナビ資料、就職支援一課利用者数)
2021年11月2日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告について(造形/進路調査カード) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(マイナビ資料、PLACEMENT GUIDE、期間延期インターンシップ)
2021年12月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告について(進路調査カード、PLACEMENT GUIDE、インターンシップ報告書、公欠) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(文部科学省・厚生労働省就職内定率調査)
2022年1月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告について(造形/オンライン合同企業研究会) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. 2021年度自己点検・評価報告書について 4. その他(Campus Plan Web 就職教員用ダミーコードデモンストレーション)
2022年2月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告について(服装/自己点検・評価報告書、就職支援デジタル化、造形/自己点検・評価報告書、低学年必修講座出席、現文・短大/自己点検・評価報告書) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. 2021年度自己点検・評価報告書について 4. その他(Campus Plan Web 就職教員用ダミーコード、2022年度インターンシップ受入れ企業選定)

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 大学の研究活動の活性化に関する課題 (1) 研究活動の活性化に向けた研究関連のあり方に関する検討 (2) 競争的外部資金の獲得に向けた支援体制のあり方に関する検討</p> <p>2. 教員の研究成果の発信に関する課題 (1) 本学の研究内容や特色を広く示す役割を果たす教員研究作品展及び紀要に関する検討 (2) その他研究成果の発信方法に関する検討 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. (1)2020年度に引き続き、新型コロナの影響で、実施が懸念された教員研究作品展及び紀要について検討し、日程の変更、密を避けて動画配信等の対応を行うことで実施した。 (2) 文部科学省からの「競争的研究費における制度改善について（通知）」を受け、競争的研究費を獲得した際に、研究に専念する環境を確保するために業務の代行依頼を可能とする「パイアウト制度」を2021年4月1日より施行した。 以上のことから、研究活動の活性化に向けて、本委員会としての役割を果たしたと評価できる。</p> <p>2. (1) 紀要、教員研究作品展作品集を電子化し、「教員の研究成果」としてまとめた。紀要は2022年3月10日、教員研究作品展は2022年3月14日にWeb公開した。 ・2021年12月6日～2022年1月31日に「第36回教員研究作品展」を行った。新型コロナに対する感染対策として会場展示は控え、昨年に続きWeb配信とした。出点数は38件で昨年比12件増加した。研究成果の発信方法が、出展者に周知徹底がなされた結果といえる。 ・紀要第53集は、投稿数が10件（研究論文2件、研究ノート5件、作品ノート2件、文献・資料紹介1件）となり2020年度の14件から減少した。研究論文及び作品ノートへの投稿の促進等が今後の課題となった。 また、大学院生の投稿の可否について審議したことから、紀要のあり方そのものを検討する機会となり、引き続き検討の必要がある。</p> <p>(2) 「制作・表現系統の研究の充実」と「発表の場の拡大」を目指し、A館L階にてショーウィンドー展示『教員研究・作品紹介「РЯФ (プロフ)」』を催した。2021年12月14日～12月23日の期間に「五人五色」というタイトルで染織研究室が担当し、帯、タペストリー、オブジェ、服など、これまでに制作した研究作品を展示した。2021年12月23日～2022年1月14日の期間はテキスタイル研究室機能デザイン学が「日本の伝統的的衣服における快適性・機能性研究」のテーマでポスター展示を行った。全学的にアンケートを取った結果、教員の作品を一堂に見るよい機会だったとの意見が寄せられており、評価できる。また、今年度はじめてポスター展示を行ったが、読みにくいという意見も寄せられたため文字の大きさについては検討の必要がある。 【共】</p>
<p>次年度への課題 (2022年度)</p>	<p>1. 大学の研究活動の活性化に関する課題 (1) 研究活動の活性化に向けた研究関連のあり方に関する検討 (2) 競争的外部資金の獲得に向けた支援体制のあり方に関する検討</p> <p>2. 教員の研究成果の発信に関する課題 (1) 本学の研究内容や特色を広く示す役割を果たす教員研究作品展及び紀要に関する検討 (2) その他研究成果の発信方法に関する検討 【大】</p>

■検討組織名：研究委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月13日	1. 2020年度第35回教員研究作品展 作品集第17集について報告 2. 紀要第52集執筆者、査読者のアンケート及び紀要第53集スケジュールについて報告 3. その他学内研究について報告（学内研究Web化、ショーウィンドー展示スケジュール）
2021年6月22日	1. 2021年度第36回教員研究作品展について報告（スケジュール等） 2. 紀要第53集投稿説明会の開催日時・方法について報告 3. その他学内研究について報告（学外共同研究の審査結果通知の報告、ショーウィンドー展示登録要項について）
2021年7月27日	1. 大学院生の紀要投稿の可否について審議
2021年9月8日	1. 紀要第53集登録件数、大学院生の紀要投稿可否について報告 2. その他学内研究について報告（ショーウィンドー展示スケジュール）
2021年11月2日	1. 2021年度第36回教員研究作品展の進捗状況について報告（スケジュール等） 2. 紀要第53集進捗状況について報告（査読結果、最終登録件数） 3. その他学内研究について報告（ショーウィンドー展示スケジュール変更、学外共同研究1件承認） 4. 医学中央雑誌への要旨利用許諾について審議 5. 教員研究作品展出展者への紀要（作品ノート）投稿義務化について検討
2022年1月11日	1. 2021年度第36回教員研究作品展、作品集第18集について報告（スケジュール等） 2. 紀要第53集の進捗状況について報告（スケジュール） 3. その他学内研究について報告（ショーウィンドー展示スケジュール等） 4. 医学中央雑誌への要旨利用許諾について審議 5. 教員研究作品展出展者への紀要（作品ノート）投稿の義務化について審議

■検討組織名： 研究倫理委員会

報告者：米山 雄二

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 研究倫理啓発を継続して進めていく。 2. 自己の研究内容について、研究倫理をセルフチェックし、審査の必要性を研究者が判断できる仕組みを導入する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 教員向けの研究倫理研修会及び大学院生向け研究倫理教育をオンライン形式にて開催。2021年度より競争的研究費を受ける学園内教員も受講に参加した。なお、都合により参加できなかった場合にはオンデマンドでの受講機会を設け、受講を推進した。その結果、受講率は教員で100%、大学院生で80%であり、アンケートによる理解度調査ではTOP 2BOXではほぼ100%であった。以上の研修会の実施及び結果は、学部長会及び教授会を通して受講者に伝え、研究倫理の意識向上を図った。この他、科学研究費補助金等の外部競争的研究費を受ける研究者には、申請時及び使用時に研究倫理のガイドラインの説明会を実施し、研究倫理の徹底に努めた。アンケートの自由回答により、研究分野の内容に適した研修会が求められている意見があることから、今後、各部署で啓発活動を定期的に行うように学部長会で要請した。</p> <p>2. 2021年度における研究倫理の審査は、迅速審査16件の申請があり、審査の結果、教員12件承認・1件不承認、学生3件を承認した。2021度は、研究倫理の更なる意識向上と審査の事後申請を防止するため、「研究倫理審査の申請前チェックシート」を作成し、研究計画の際に事前確認ができるように研修会及び教授会で周知した。なお、このチェックシートは、学生の卒業研究等の指導にも利用可能であり、審査申請方法などもあわせて情報共有を行った。これにより研究計画や申請時における相談事項の要点が明確になり、研究倫理への意識向上につながった。</p> <p>以上、2021年度の課題に対して100%を実行できた。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. 研究倫理啓発を継続して進める。 2. 研究倫理に関するセルフチェックの活動を、授業や卒業研究などへと浸透・拡大していく。【大】</p>

■検討組織名： 研究倫理委員会

開催年月日	講演会等の開催記録
2021年6月16日	<p>助手を含む全教員を対象に、研究倫理啓発のための研修会をオンライン開催した。</p> <p>テーマ：研究倫理啓発のために（7）</p> <p>講演者：造形学部長</p>
2021年9月28日	<p>大学院生を対象に、研究倫理教育をオンラインで実施した。</p> <p>テーマ：大学院で研究を始めるにあたり</p> <p>講演者：生活環境学研究科長</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2021年6月14日～ 7月2日	<p>1. 「研究倫理審査の申請前チェックシート」の内容について審議した。</p> <p style="text-align: right;">(2021年7月13日教授会報告)</p>
2022年3月3日	<p>1. 2021年度における研究倫理審査の結果、及び活動の振り返りについて協議した。</p> <p>2. 2022年度版の「研究倫理リーフレット（学生用）」の一部変更について報告した。</p>

■検討組織名：研究活動不正防止委員会

報告者：米山 雄二

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度も引き続き不正防止対策を実施する 2. 公正な研究活動推進への取組みを継続 3. 研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく学内関連規程の改定及び適正な運用 4. 競争的研究費の運営・管理に関わる部署と連携し、研究費の使用及び承認プロセスの見直しを図る <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不正防止対策として、研究活動不正防止への研修・教育を以下のとおり実施した。 <ol style="list-style-type: none"> (1)教職員を対象にしたコンプライアンス研修会 (2)教員を対象とした研究倫理研修会 (3)大学院生を対象とした研究倫理教育 (4)科学研究費助成事業公募説明会 <p>これらの実施により、研究活動における不正行為及び注意点について理解を深め、(1)～(3)については受講後のアンケート調査により、その理解度及び2022年度への課題等も確認した。</p> <p>また、(1)・(2)の各研修会について、2021年度より文化ファッション研究機構の研究助成に関わる研究者(学園内の各学校の教員)を受け入れ、学園内の研究活動の不正防止の一役を担った。</p> <p>2022年度も引き続き、支援協力を行う。</p> 2. 公正な研究活動の推進に関する取組みとして、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく実施方針変更に伴う「文化学園大学・文化学園大学短期大学部研究活動の不正防止及び公正性の確保に関する規程」を2021年4月及び7月に以下を改定し、学内への情報共有を行った。(2021年4月1日・7月13日教授会報告・大学HP更新) <ol style="list-style-type: none"> (1)第2条の不正行為と認定されるものについて、「故意又は研究者としてわきまえるべき、基本的な注意義務を著しく怠ったときに限る」ことを追加 (2)第11条の不正行為の告発申立て方法を明確化 3. 上記規程改定を学内に知らせるとともに、研究科・学部ごとの研究特性に合わせた不正防止活動を部署ごとに定期的に行うよう、本委員会から各研究科長・学部長に要請した。 4. 競争的研究費の使用及び承認プロセスについての見直しを図るため、2021年度より監事及び監査室との研究活動不正防止に係る情報共有と意見交換を行う機会を設け、より適切な運用を行う体制を強化した。この意見交換を基に、学部長会及び本委員会等を通じて学内の所属長に情報を共有、見直しが必要な部署には改善の要請を行った。監事との意見交換は、毎年学内の監査が終了する11月に実施することとした。 <p>以上、2021年度の課題に対して100%を実行できた。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度も引き続き不正防止に係る研修会、教育、説明会等の実施 2. 公正な研究活動推進への取組みの継続 3. 研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインとそれに基づく学内関連規程の改定及びこれらの周知 4. 競争的研究費及び教員研究費の使用計画並びに実績報告に対する点検方法の見直し <p style="text-align: right;">【大】</p>

■検討組織名：研究活動不正防止委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月1日	1. 研究倫理審査の要不要の確認、不正行為の認定基準の明確化（規程改定）、パイアウト制度の運用開始について報告（2021年4月1日教授会）
2021年6月16日	1. 研究倫理研修会の実施 対象：助手以上の教員 (1) 本研修会の意義、研究活動の定義及び研究倫理の範疇についての確認 (2) 特定不正行為を含む研究不正行為の確認 (3) インフォームド・コンセント、研究データの保存・開示、不正行為の告発学内窓口の確認 (4) 本学における研究倫理の審査方法の確認 (5) 学内外の研究倫理に関する教材の情報共有 研修後のアンケートで個々の理解度を確認、最高管理責任者（学長、以下同じ）、統括管理責任者並びに各研究倫理教育責任者に報告（2021年9月6日学部長会）
2021年6月29日	1. コンプライアンス研修会の実施 対象：助手以上の教員及び競争的研究費等の運営・管理に関わる職員 (1) コンプライアンス教育の必要性 (2) 研究不正の現状及び研究機関における不正使用事案 不正事案の概要、研究機関・配分機関が行った措置、発生原因及び再発防止策等 (3) 本学の取組み（学内関連規程改定の解説及び情報共有、不正行為の告発窓口の確認） 研修後のアンケートで個々の理解度を確認、最高管理責任者、統括管理責任者並びに各コンプライアンス推進責任者に報告（2021年9月6日学部長会）
2021年5月～ 7月13日	1. 「研究倫理審査の申請前チェックシート」の作成、学内共有 2. 「文化学園大学・文化学園大学短期大学部研究活動の不正防止及び公正性の確保に関する規程」の改定について検討、報告（1・2 2021年7月13日教授会）
2021年7月19日 ～9月21日	1. 競争的研究費の使用法に関する説明会（計7回）の実施
2021年9月28日	1. 研究倫理教育の実施 対象：大学院生（博士・修士） (1) 研究活動における研究倫理の必要性 (2) 不正行為の種類 (3) 「研究倫理」を身につける—不正行為を疑われないための心がけ 実施後のアンケートで受講者個々の理解度を確認、最高管理責任者、統括管理責任者並びに各研究倫理教育責任者に報告（2021年10月11日学部長会）
2021年11月1日	1. 監事及び監査員との研究活動不正防止に係る情報共有と意見交換
2021年11月9日	1. 最高管理責任者による教員及び競争的研究費等の運営・管理に関わる職員への研究の実施、研究費の使用等についての各自確認、徹底の啓発（2021年11月9日教授会）
2021年11月15日	1. 監事及び監査室との研究活動不正防止に係る情報共有と意見交換での指摘事項報告 （2021年11月15日学部長会）
2022年3月3日	1. 研究活動不正防止委員会を開催し、以下の報告及び2022年度の取組みについて協議した。 (1) 2021年度不正防止計画の実施状況 (2) 不正行為防止への取組みの継続 (3) 研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく学内関連規程の改定及び適切な運用 (4) 研究費の適切な運用のため、監事及び監査室等学園内の競争的研究費の運営・管理関連部署との情報共有・連携を図る。

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討</p> <p>2. 一般の方々への教養の増進と専門知識の修得に資する場としての受講者の参加を促すような特別公開講座の開催方法と広報に関する検討 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 特別公開講座の果たすべき役割に鑑み、コロナ禍においても開催することを前提に内容を検討し、先の見通せない状況にあっても多くの方に参加していただけるよう、また、これまで参加経験のない新しい受講層の参加を促すため、初めての試みではあるがオンラインライブ形式で開催した。講演候補者選択には、本学の多様な研究分野を理解いただけるように、分野やテーマの偏りが無いよう考慮し決定した。</p> <p>2022年2月24日、2021年度特別公開講座「伝統工芸の金工にみる色金の世界 -素材と技法+αの魅力- (本学専任教授)」を開催し、本学の特色でもある実習授業を多く取り入れた作品制作における研究上の成果を学外にアピールできた。</p> <p>2. 2021年度は2020年度に引き続き、コロナ禍の状況において開催可能な方法や内容を具体的に検討した。そのような中、オンライン形式での講演会開催が手法として定着してきており、一般の方もそのような催しに参加する機会が増えていることや、これまで参加経験のない新しい受講層の参加が見込まれるなどの理由により開催形式を決定した。これまでの参加者は対面形式により本学講堂で行っていたため、東京、埼玉、千葉、神奈川の1都3県が参加者のほとんどを占めていたが、今回のアンケート結果ではそれ以外の地域から全体の11.7%の参加者があったことや、初めて参加した方が全体の半数近い45.7%だったことから一定の効果があったと思われる。</p> <p>また、今回の講演テーマが作品制作系の研究であったため、アンケート結果によるとオンライン形式では画像資料の作品細部や制作工程などわかりやすかったとの声が多かったが、一方では実物を見てみたいとの声もあった。受講者の理解のしやすさをもとに考えると、講演のテーマや内容によって最適な開催形式が選択できるとよいと考えられるが、それぞれの開催形式には異なる利点があるため状況に応じて多面的に検討する必要がある。</p> <p>広報についてはこれまで印刷物を中心に行なっていたが、2021年度はオンライン形式での開催のため印刷物の種類、告知方法を見直し、大学HPに公開講座特設サイトを設置して、広報媒体としてだけでなく、参加登録受付、講座用資料の配信などをオンラインで簡便に行えるよう工夫し、問題なく進めることができた。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討</p> <p>2. 一般の方々への教養の増進と専門知識の修得に資する場としての受講者の参加を促すような特別公開講座の開催方法と広報に関する検討 【大】</p>

■検討組織名： 公開講座実行委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年5月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍における2021年度特別公開講座の開催実現の可能性について協議 2. 特別公開講座として考えられる4つの開催形式について、それぞれの場合における実現の可能性と懸念される事項について検討 3. 特別公開講座のテーマ及び講演候補者選出について各委員へ依頼
2021年6月30日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別公開講座の講演候補者選出について選出理由及びテーマについて検討 2. 2021年度特別公開講座の最適な開催形式について協議 3. オンライン形式での開催の場合の条件・課題について協議
2021年7月10日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別公開講座の講演候補者選出について協議、候補者の決定
2021年7月27日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別公開講座の講座開催日について検討、決定 2. 運営側として特別公開講座の開催形式について検討 3. オンライン形式で開催する場合の技術面の体制整備について協議
2021年9月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別公開講座の開催形式について協議、決定 2. 特別公開講座の広報・告知の方法について協議 3. オンライン形式での技術面の体制整備について協議
2021年10月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報物デザインの進捗状況の報告、広報物の仕様について検討 2. 特別公開講座運営・進行の役割分担について決定
2021年11月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各役割担当より進捗状況の報告 2. 広報物・大学HP公開講座特設サイトの掲載内容について検討 3. オンライン開催システム、参加登録方法について検討内容の報告
2022年1月11日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学HP公開講座特設サイトの掲載案について検討、決定 2. 仮設ページにて委員による受講手続きから受講、アンケートまでの事前検証 3. 広報物の送付形式・送付時期・送付先に関する確認 4. 広報依頼先の報告
2022年2月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前申込手続き数の報告及び講座当日の進行、役割分担、連絡方法について確認 2. 講座後のアンケート案について検討 3. 学内にて広報物のプリント出力の掲示について検討、決定
2022年2月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講座開催状況について報告 2. 各役割担当へ2021年度の記録作成、次回開催に向けた検討事項の抽出の依頼
2022年3月8日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各役割担当より2021年度についての特記事項、2022年度に向けた改善点について報告 2. 2022年度に向けた公開講座実行委員会の課題について協議
2022年3月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「2021年度 自己点検・評価報告書」の内容確認

■検討組織名： ハラスメント防止委員会

報告者：石田 名都子

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の 課 題 (2021年度)</p>	<p>1. 「申し送り事項」に示された方針に従って、10年以上が経過した取扱事案の記録を破棄する。 2. 2021年度の委員会のあり方について検討する。 3. 「学生生活調査」における学生アンケートの内容を精査する。 4. 教職員全体に対し、ハラスメント防止への意識啓発をはかり、併せてその方法について検討する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 本委員会の取扱事案で10年を経過した資料・書類等(2011年度の取扱事案)を「申し送り事項」に示された方針のとおり破棄した。 2. 2021年度の委員会のあり方について検討した結果、2019年度までのあり方を踏襲していくこととした。 3. ハラスメント相談員の存在について学生へ知らせる方法の一つであるハラスメントに関するリーフレット「NO Harassment!」を増刷し、学生に配布した。 4. 教職員全体に対して、ハラスメント防止への意識啓発を図る方法について今後も検討を継続する。 ＜点検評価＞ ・2021年度に課題として設定した事項は、概ね達成することができた。 ・ハラスメント事案では、2件の申し立てに対応した。1件目は、2020年度から継続審議されていた事案だが状況が改善され、2021年5月に解決した。2件目は、6月から聞き取り調査を実施していた事案であるが、9月に解決することができた。 【共】</p>
<p>次年度への 課 題 (2022年度)</p>	<p>1. 「申し送り事項」に示された方針に従って、10年以上が経過した取扱事案の記録を破棄する。 2. 2022年度の委員会のあり方について検討する。 3. 「学生生活調査」における学生アンケートの内容を精査する。 4. 教職員全体に対しハラスメント防止への意識啓発をはかり、併せてその方法について検討する。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月5日	<p>・増刷されたリーフレット「NO Harassment!」の配布 1. 全新生にリーフレットを配布 2. 新任の全非常勤講師にリーフレットとともにハラスメント防止への協力要請文を送付</p>
2021年4月29日	1. 2021年度ハラスメント防止委員会委員と相談員の構成表の確認
2021年5月	1. 2020年度から継続審議のハラスメントの申し立て事案は、状況が改善され解決した。
2021年7月19日	<p>1. 2011年度取扱事案の記録廃棄について(承認) 2. 2021年度の委員会の活動について 3. 「学生生活調査」における学生アンケートの内容の精査と教職員全体のハラスメント防止への意識啓発を図る方法について 4. 報告事項：ハラスメントの申し立て事案について</p>
2021年7月	1. 2011年度取扱い事案の書類廃棄
2021年6月～9月	1. 1件のハラスメントの申し立てがあり、本事案について小委員会を立ち上げて調査、審議した結果、9月に解決した。
2022年2月8日	1. 2021年度ハラスメント防止委員会自己点検・評価報告書(案)の検討
2022年3月1日	1. 2021年度ハラスメント防止委員会自己点検・評価報告書(案)の確認
2022年3月11日	1. 2021年度ハラスメント防止委員会自己点検・評価報告書の提出について

■検討組織名： 障害学生支援委員会

報告者：佐藤 浩信

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 規程に基づく障害学生への継続的な支援活動 2. 文部科学省の通達を踏まえたより実効性のある障害学生支援のあり方の検討 3. 関連部署との有機的な連携 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 2021年度の要支援学生に対し、継続的な支援が行われているか確認のうえ、学生の自立を目指した規程に基づく合理的配慮及び実施されている支援内容についての確認を行った。結果、2020年度の方針に基づく継続支援が行われ、概ね順調に修学し学年末を迎え卒業に至った学生もおり、概ねの目標に到達した。継続して、規程に基づく支援を実施し、要支援学生の修学のための本質的かつ具体的な支援を充実させ、当該学生の自立及び成長を促すことに努めた支援を行っていく。</p> <p>2. 2019年度に行われた学園の組織変更に基づく全学的な学生支援への整備が図られたことから、文化学園障害学生支援委員会に当委員会から委員2人が参加し、学園全体の支援の状況及び課題点について意見交換を行い、合理的配慮実施に際する教務上の公平性の確保の重要性などについて問題提起を行った。要支援学生への個別支援については、学園学生生活支援室との連携を深めながら、実施される個別支援の現状の把握と承認、卒業後必要とされる社会的支援についての情報提供及び就職指導などが行われた。支援に対する基本的な視点については、傷病又は障害に関する確定診断の有無にかかわらず、教育的観点から合理的配慮に基づく修学上必要とされる支援を提供し、状況に応じた建設的な支援を行っていくことを確認した。なお、支援環境の充実と整備にも意識を置き、ピアヘルパー資格を有する学生による学生同士の日常的な支援活動にも対応できるよう有資格者の増員に向けた告知と支援意識の啓発を行い、長期的な支援環境の整備と意識の向上に努めており、検討の余地は残るものの概ねの目標に到達している。</p> <p>3. 上質な合理的配慮に基づく学生支援を行っていくために、学生課、学生生活支援室、就職支援一課、学園障害学生支援委員会との連携を行っている。学生生活における実務的な支援については、障害学生支援コーディネーター等の実務担当者の介入により、インクルーシブ教育として様々な情報の共有を行い、支援学生が必要としている適切な支援の提供及び進言を行った。社会情勢の変化に応じた更なる支援が必要ではあるが、2021年度の目標は概ね達成できた。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. 規程に基づく障害学生への継続的な支援活動 2. 文部科学省の通達を踏まえたより実効性のある障害学生支援のあり方の検討 3. 関連部署との有機的な連携 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2021年11月15日	<p>1. 学生の支援申請についての可否判定（審議） 提案のとおり承認 【共】</p>
2022年2月18日	<p>1. 学生の支援申請についての可否判定（審議） 提案のとおり承認 2. 学園障害学生支援委員会（2月開催）の報告 3. その他（学園障害学生支援委員会との連携について） 【共】</p>
2022年3月16日	<p>1. 2021年度要支援者の最終報告と2022年度の支援継続状況の報告 2. 2022年度支援を必要とする入学予定者に関する報告 3. その他（2022年度の委員会のあり方等） 【共】</p>

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. カリキュラムについて (1)新カリキュラム完成年度となり、4年間の履修システムに問題がないか見直しを行う。 (2)指定科目の教員が変更となる科目については、随時科目担当者と打合せを行い、認定が得られるように進める。</p> <p>2. 「テキスタイルアドバイザー（以下「TA」）実習」について (1)実習先が減少傾向にあるため検討する。 (2)2021年度も実習は中止となることから、衣料管理士と社会との関わり方の重要性を、各委員が関係している指定科目の中で伝えていく。</p> <p>3. 継続してTA資格の魅力と取得の意義を認識させる。 (1)1、2年生にも「TA交流プロジェクト」を導入し、現場の話を紹介することで、よりTAの魅力や意義を理解してもらう。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. (1)①時間割上の問題点として、TA資格対象科目と教職科目との重複があり、時間割調整を行った。 ②資格指定科目「テキスタイルデザインⅠ」の担当者より、履修人数の問題があるため、指定科目から外したいとの願い出があった。代替科目として「染色加工学実験」を新設し、2022年度生より対応することとした。 (2)2022年度より担当変更について日本衣料管理協会へ事前申請し、1科目のみ保留となった。引き続き、保留となっている科目について認定が得られるように努める。</p> <p>2. (1)実習先の減少について他大学からも同意見が出ており、衣料管理協会でもTA実習のあり方（必修、選択）について検討が始まった。その動向を見つつ、他大学の状況や実習先の受け入れ体制などの情報収集を行った。 (2)衣料管理士のあり方と、衣料管理士と社会との関わり方の重要性について、担当している授業の中で十分伝えるように努めた。</p> <p>3. (1)新型コロナの影響により、日本衣料管理協会主催の「TA交流プロジェクト」の開催が中止となった。TA資格の意義などの説明については、委員が作成した動画資料を1・2年生にメールで配信し、学生が随時確認できるようにした。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. カリキュラムについて 2020年度生より4年次で最終試験を実施することが決定し、試験対策や実施時期などの検討を行う。</p> <p>2. 「TA実習」について 日本衣料管理協会の意向（必修から選択への変更）を注視しながら、2023年度からTA実習が実施できるよう準備を進める。</p> <p>3. TA資格の魅力と取得の意義を認識させる。 「TA交流プロジェクト」が作成した動画資料を活用し、TAの魅力や意義を理解させる。 【大】</p>

■ 検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月6日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度衣料管理士課程専門委員、役割分担について 2. 自己点検・評価報告書の提出について 3. 「TA実習」授業内容の確認
2021年5月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度正会員申請書について 2. TA資格取得希望の3年生について 3. 「TA実習」について
2021年5月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. TA協会年次報告書の確認
2021年10月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. TA協会年次報告書の審査結果報告
2021年11月8日	<ol style="list-style-type: none"> 1. TA資格取得における試験導入に関して 2. 2022年度「TA実習」について 3. TA資格科目に関する2022年度履修要項の内容検討 4. TA資格取得予定の4年生への説明会について 5. 2022年度からのTA関連の授業について
2021年12月8日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衣料管理士資格認定証の確認
2022年1月6日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衣料管理士資格最終試験導入に関する検討 2. 衣料管理士会長賞対象学生の選出
2022年2月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度履修要項の確認
2022年3月23日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度4月のオリエンテーション「衣料管理士資格に関するガイダンス」について 2. 2022年度履修要項について 3. 自己点検・評価報告書について

開催年月日	学生指導等の記録
2021年4月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションクリエイション学科1～2年生対象（動画視聴・リーフレット配布）オリエンテーション「衣料管理士資格に関するガイダンス」 ・ファッションクリエイション学科3年生対象 資格取得のためのガイダンス
2021年12月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションクリエイション学科4年生資格取得予定者対象 資格認定証交付等の手続きに関する説明会
2021年12月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生対象 衣料の使用実態調査（日本衣料管理協会より依頼）の説明会
2022年1月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・衣料の使用実態調査の回収、点検

■検討組織名： 建築・インテリア系資格専門委員会

報告者：谷口 久美子

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在学生の資格取得支援対応策の継続 2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続とPDCAサイクルの構築 3. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度は新型コロナ感染防止対策としてオンライン授業が継続されたため、課外授業1講座（「インテリアコーディネーター資格試験対策講座 2021」）についても一部オンラインで実施した。またコラボレーション科目4講座（「インテリアプランナー設計製図試験対策講座」、「マンションリフォームマネジャー資格講座」、「キッチンスペシャリスト資格講座」、「福祉住環境コーディネーター資格講座」）については2020年度同様、一部オンラインで実施したが、これら4講座については受講者数に比べて実際に受験する学生が少ないこともあり、あらためて資格取得対策講座として見直すこととなった。そこで2022年度から「インテリアプランナー設計製図試験対策講座」、「キッチンスペシャリスト資格講座」、「福祉住環境コーディネーター資格講座」の3講座については資格取得対策講座として「インテリアコーディネーター資格試験対策講座」と同様に課外授業として実施することとした。二級建築士のアカデミック講座については、10月に、ガイダンス・説明会を実施した。 2. 建築・インテリア系資格の受験及び資格取得状況について、在生については5月に、卒業年次生については3月卒業時に実施した。調査方法はGoogleフォームを導入したが、回答率は依然として低く、実施方法については今後も検討する。また卒業生の建築士資格取得調査については、2021年度も見送ることになった。これらの調査方法及びデータの活用については、2022年度以降の検討課題とする。 3. 2022年度への継続課題とする。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在学生の資格取得支援対応策の継続 2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続とPDCAサイクルの構築 3. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請 <p style="text-align: right;">【大】</p>

■検討組織名： 建築・インテリア系資格専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年6月15日	1. 資格取得に関するアンケート実施状況の報告。
2021年9月29日	1. 建築士試験の指定科目の確認申請(更新申請)について、2022年度からカリキュラムを変更する「CAD 演習 I」や授業内容の一部変更を希望する科目についてシラバスを確認し、変更申請ではなく確認申請で提出することとした。
2021年10月5日	1. 在学生の資格取得支援対応策について、現状コラボレーション科目として実施している4講座のうち、3講座（「インテリアプランナー設計製図試験対策講座」、「キッチンスペシャリスト資格講座」、「福祉住環境コーディネーター資格講座」）については、2022年度から課外授業として実施することとした。またマンションリフォームマネジャーについては、資格取得講座としてではなく、リフォーム全般について学ぶ講座としてコラボレーション科目として実施することとした。（11月30日学科会議承認）

■ 検討組織名：文化・語学研修専門委員会

報告者：加藤 薫

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム(国内)」に関して、刷新した企画について実施、評価を行っていく。</p> <p>2. 海外留学 (1)引き続き、留学に関し学生の意欲を喚起しつつも適切な指導と審査を行う。 (2)「誓約書」の書式については、さらに見直すべきところがないか改めて検討する。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「文化・語学体験プログラム(国内)」に関しては、国際文化・観光学科の授業(「プロジェクトセミナーⅡ」と連動させて、研修プランを刷新するために、小グループにわかれて研修内容を考えさせ、最終的にコンペ方式により最優秀企画を研修内容に取り入れることとした。 しかし残念ながら、新型コロナの影響で実施することができなかった。</p> <p>2. (1)2021年度も残念ながら新型コロナの影響により、留学が成立しなかった。 (2)「誓約書」の書式については引き続き見直しを行ったが、見直すべきところは見つからずそのまま使用することとなった。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム(国内)」に関して、刷新した企画について実施、評価を行っていく。</p> <p>2. 海外留学 (1)新型コロナの状況を注視しながら、留学に関し学生の意欲を喚起しつつも適切な指導と審査を行う。 (2)「誓約書」の書式については、引き続き見直すべきところがないか検討する。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>※2021年度は、新型コロナの影響により留学希望者がいなかったため、委員会を開催しなかった。</p>

■検討組織名：日本語教員養成課程専門委員会

報告者：星 圭子

提出日：2022年3月31日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 実習先の選定 新型コロナ流行継続による留学生数の不安定な状況は続くが、引き続き教育実習受け入れ先を見つける必要がある。教壇実習の実施には従来の本学の枠組みでは難しくなることも予想され、さまざまな検討が必要となる。</p> <p>2. 他学部履修学生への対応 課程科目の時間割等は、課程設置学部である現代文化学部中心に決められるが、他学部生の履修が容易になるような実施可能な対応を考える必要がある。</p> <p>3. 2017年度新指針への対応 新指針に合致した履修、実習の実施方法を検討する。また、新たに取りまとめられた文化庁文化審議会国語分科会による2019年度「日本語教育人材の養成・研修のあり方について（報告）改訂版」への対応のあり方も検討していく必要がある。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. これまで見学のみを依頼していた文化外国語専門学校に、模擬授業実施と教壇実習実施も含めて依頼し、教育実習を実施した（2021年6月～9月）。コロナ禍の状況に合わせ、すべてオンライン上で実施された。文化外国語専門学校は平素よりオンラインと対面のハイブリッドで授業を行っており、オンラインでの実習実施には全く問題はなかった。</p> <p>2. 他学部からの履修学生については、2021年度開講科目の履修について所属学科・クラス・コースの先生のご理解とご配慮をいただき、問題なく課程履修を実施できた。</p> <p>3. 文化庁文化審議会国語分科会による2019年度「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改訂版」（以下「報告」）の対応について、本課程各科目で取り扱う教育内容を精査したところ、ほぼ対応していることが確認された。その上で取り扱っていなかった少数の項目については関連する既存科目に振り分けて2021年度授業より扱うこととし、2021年は対応した授業を実施することができた。また、教育実習においては、実習先である文化外国語専門学校との複数回の協議の上、報告にあるレベルの規模と方法で実習を実施した。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. 実習の実施 本課程は2020年度より課程履修者の募集を停止しており、2022年度は最後の教育実習実施となる。2022年度も文化外国語専門学校において実習を行うことが決定されており、相互の担当者との協議を進め、2021年度の運営上の問題を解決しつつ実習生にとって学びの深い実習のスムーズな実現を目指す。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2021年7月2日	1. 課程履修中断学生に対する意志の確認結果の報告
2021年10月22日	日本語教育実習成果報告会を実施。 全委員と課程教科担当教員が参加し、実習生の発表をもとに質疑応答を行うなどして成果を確認した。課程履修中の3年生も参加し2022年度の実習への予備知識を得た。
2022年2月下旬 ～3月上旬	1. 2021年度課程修了生の修了認定の確認 2. 自己点検・評価報告書内容についての検討

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討と対応 2. 教職課程の取消者数を減少させるための検討と対応 3. 教育実習の学修成果向上に向けた指導体制及び内容の検討と対応 4. 教員採用試験対策講座の継続と充実 5. 教職演習室のより効果的な活用に向けた検討と対応 6. 新型コロナの影響による介護等体験の検討と対応（新規追加） <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度も継続的にオンライン「教職課程ホームルーム」（以下、「HR」）を実施し、教職課程履修の目的や意義への理解を深めることができた。学修への取り組みをより確かなものとするため、各学年に必要な各種連絡や指導、手続き等を過不足なく行うことができた。こうした取り組みに加えて、HR後は学生からの個別相談に応じるなど、多様な学生のニーズに対応できたことは評価できる。また、2021年度新入生に向けた「教職課程履修の手引き」は、教職課程履修に対する教員・学生間の相互理解を図るとともに、学生自らが学修指針として活用したことは評価できると考える。教職課程履修への意識を高める効果が期待でき、今後、より一層継続的な運用が必要である。 2. 2020年度より2～4年次を対象として実施している「教職課程交歓会」は、学年を超えた意見交換の場となった。コロナ禍におけるこうした取り組みは、履修継続に対する不安軽減や目的意識の再認識等、予想以上に大きな効果が得られたと評価できる。教職生同士のコミュニケーションの場を設け、学生が相互に繋がり、学び合い、交流を深める機会の拡充を図る必要がある。一方で、教職課程辞退理由の分析から、特に、履修への意欲低下に対する適切な指導とその時期の検討が必要であることがわかった。上記HR後の個別相談に加え、「教職課程履修ノート」及び「教職課程履修カルテ」等による学修意欲や履修状況の把握等、様々な観点からの学生対応と指導は継続的に必要である。 3. 「教育実習集中事前教育」では、教育実習の目的や心構え等の全体指導から教科教育を中心とした個別指導に至るまで、教員としての資質・能力及び実践的指導力の向上を目指し指導を行うことができたことは評価できる。結果として2021年度教育実習では、対面による授業等での指導が不十分な学修環境にも関わらず、概ね期待どおりの学修成果が得られた。また、4年次後期科目である「教職実践演習（中・高）」ではオンラインによる成果報告会を行い、教職課程4年間の集大成として形にすることができた。今後より一層の成果向上を図るため指導体制の検討と充実が必要である。 4. 本講座は3年生を対象として開講予定であったが、2021年度は受講希望がなかった。教員のやりがいや魅力を伝える等、可能な限り早い段階での対応を検討し、受講者増加と合格者輩出に向けて取り組む必要がある。 5. 2021年度もオンラインを主とした授業展開のため限定的な使用にとどまった。教科教育法における実践的指導力の向上に向けた学修環境の整備とともに、教職資料室として教材研究や自主学修の場として活用できるよう検討を進めたい。 6. 2020年度より文部科学省等の動向や配信情報をもとに継続的に検討し、関係機関との連携を図りながら準備や対応を進めてきたが、緊急事態宣言の発出により社会福祉施設での現場体験が急遽中止となった。文部科学省が定める代替措置として印刷教材による学修を行ない、障害児の教職課程及び指導法に関して概ね一定の理解を深めることができた。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>次年度への課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職課程履修への主体的な取り組みに向けた指導方法の検討と対応 2. 教育実習の学修成果向上に向けた指導体制及び内容の検討と対応 3. 介護等体験実施に向けた準備の円滑化及び指導方法の検討と対応 4. 教員採用試験対策講座の継続と充実 5. 教職演習室のより効果的な活用に向けた検討と対応 <p style="text-align: right;">【大】</p>

■検討組織名：教職課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月2日	1. 委員会三役選出及び新任委員紹介 2. 教職課程履修の手引き 3. 2020年度教育実習報告書 4. 2020年度自己点検・評価報告書 5. 2021年度教職課程ガイダンス 6. 2021年度教育実習 7. 2021年度介護等体験及び介護等体験事前教育 8. 2021年度教育実習履修審査の日程 9. 教職課程履修2・3年生の健康診断
2021年4月28日	1. 2021年度教育実習履修再審査 2. 2022年度教育実習履修審査 3. 2021年度教育実習 4. 2021年度介護等体験事前教育 5. 教職課程ホームルーム 6. 教員採用試験出願
2021年7月16日	1. 2021年度調理学・調理実習費の減額 2. 2021年度介護等体験 3. 教員採用試験対策講座
2021年9月16日	1. 2021年度教育実習 2. 2021年度介護等体験（代替措置） 3. 「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法（仮）」開設 4. 再課程認定の事後調査対応 5. 教員採用試験対策講座 6. 教職課程履修の手引き 7. 教職演習室の活用 8. 第9回文化学園大学・教職研究会
2021年11月30日	1. 2021年度教育実習単位認定審査 2. 2021年度保育実習 3. 第9回文化学園大学・教職研究会 4. 2023年度教員採用試験対策講座 5. 教職課程カリキュラム改定 6. 「教職実践演習（中・高）」成果発表
2022年2月15日	1. 2022年度教育実習集中事前教育 2. 2021年度自己点検・評価報告書案 3. 教職課程履修の手引き 4. 2021年度介護等体験 5. 教職課程ホームルーム 6. 第9回文化学園大学・教職研究会
2022年3月8日	1. 2021年度自己点検・評価報告書案 2. 2021年度教育実習報告書 3. 2022年度教職課程ガイダンス 4. 教職課程履修の手引き 5. 2022年度調理学・調理実習費の報告 6. 2022年度教育実習集中事前教育の報告 7. 教育実習履修審査についての検討

■検討組織名：学芸員課程専門委員会

報告者：田中 直人

提出日：2022年3月24日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 非常勤講師のオンライン授業の進め方について、大学が示すオンライン授業の枠組みを適切に伝え、適正な形で授業運営がなされるよう支援を行う。 2. 学芸員課程の総まとめの場と位置づけられる「博物館実習」について、オンラインを併用して行うこととなる館園実習の教育効果をどう高めてゆくか、学生を受け入れる文化学園服飾博物館のスタッフと連携しつつ、手法を確認し、課題を検討、解決していくことが求められる。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナの蔓延に伴い、オンライン授業が必須のものとなった現在において、そのメリットとデメリットを理解し、適切な授業運営に結び付けていくことは不可欠である。大学発信の情報のすべてを受け取れるわけではない非常勤講師に対し補足説明を行い、ガイドラインを十分理解頂いた上で、適正な授業をして頂くことができた。 2. 館園実習の全日程が終了して以降、館園実習を担当頂く文化学園服飾博物館のスタッフと、オンライン授業下での館園実習のあり方について検討の場を設けた。実習とはいえ、すべてが対面である必要はないこと、内容と進め方次第では、オンラインでも問題はないとのことであった。また、「鑑賞ガイドの作成」などの課題においては、パソコンを使って行うことの有効性について、多くの指摘があった。 【大】
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学芸員資格を取得することの意義や博物館で働くことの魅力を、履修学生に適切に伝えるべく、発信の機会を設ける。2年生向けガイダンスに加えて3、4年生向けにも、学芸員課程に在籍することの目的を確認させる機会を設けることが求められる。 2. 「学芸員課程の総まとめの場」として位置づけられる「博物館実習」について、高い専門性を持つ教員、豊富な実務経験を有する学芸員の指導の下、より実践的で効果的な内容となるよう、継続して検討することが求められる。 3. オンラインを併用して行うこととなる授業の教育効果をどう高めてゆくか、手法を確認し、課題を検討、解決してゆくことが求められる。 【大】

■検討組織名：学芸員課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2022年3月17日	会議（委員） 1. オンライン体制下における課程専門科目の授業運営について 2. 課程専門科目における成績評価のあり方について 3. 2022年度の各学年向けのガイダンスの内容について 4. 2022年度の館園実習のあり方について 5. 2022年度より新規採用される非常勤講師について
2022年3月17日	会議（委員及び服飾博物館学芸員） 1. 2021年度の館園実習の振り返りと反省 2. 2021年度の館園実習における、学生指導について 3. 2022年度の館園実習の進め方について 4. 文化学園服飾博物館の2022年度の業務予定について

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 司書課程の授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2. 図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 2021年度も2020年度に続き新型コロナウイルス感染防止対策の為、対面授業・校外学習（図書館見学）などを中止し、原則としてオンライン授業を継続するなどして取り組んだ。</p> <p>(1)授業 新カリキュラム移行10年目の2021年度も、引き続き授業内容の魅力向上に取り組んだ。対面授業から原則オンライン授業に変更したことで様々な対応を取り、授業した。資料組織の科目に必須の『日本十進分類法』『日本目録規則』『基本件名標目表』（いずれも日本図書館協会）のPDF版を活用した。「児童サービス論」での現職図書館員による実演は休止、「図書館概論」の『私の読書体験記』はPDF版を配付とした。一部科目でのミニッツペーパーの提出は継続し、オンライン授業ではGoogle Classroomを活用して課題の回収等を効率化し、さらに学生へのフィードバックを十分に行うことで授業の満足度を高めることができた。</p> <p>司書課程の4年生向けの選択科目4科目中の2科目を金曜日に、残り2科目を集中講義での時間割を組んだが、2021年度は4年生の受講生が大幅に減少した為、集中講義2科目のみ開講した。</p> <p>(2)履修登録 2021年度の司書課程の履修ガイダンスを2年ぶりに対面で実施した。履修登録システムの課題から個別対応で履修登録の支援を行った。2021年度の登録者は1年生32人、2年生28人、3年生11人、4年生4人、計75人で、2020年度に比べ1人増えた。司書課程の科目が卒業単位の対象となったことで受講意欲が向上し1年生の登録が2年続いて30人を越えたと考える。</p> <p>(3)2021年度卒業生の司書資格取得状況 2人の卒業生が司書資格を取得した（現代文化学部1人、造形学部1人）。</p> <p>(4)司書課程受講生のアンケート調査の実施 毎年、1年生向け科目「図書館概論」受講生に司書課程を受講する動機等の把握のため調査を行い、2020年度と同じ28人から回答を得た。その主な結果は以下のとおりで、司書資格を取得したいという学生の希望を反映した授業内容となるように工夫する。</p> <p>① 司書課程の履修理由は、司書資格取得が21人、興味のある科目がある6人など。 ② 他に取得したい資格は、学芸員11人、教職2人など。 ③ 司書資格取得を考えた時期は、大学入学前11人、1年生時13人、2年生時が3人だった。受講生の約4割が入学前に司書資格取得を希望して本学を選択していた。 ④ 将来の職業との関係は、資格を生かし図書館等で働きたい1人、資格を生かせる職場で働きたい5人、資格には特にこだわらない20人などという結果だった。</p> <p>2. 就職希望者等への支援 履修者向けに司書採用情報やアルバイト情報を収集したが、新型コロナの影響もあり成果はなかった。本学図書館の嘱託職員に2020年度卒業生1人が採用され、2019年度から始めた本学図書館のSA（スチューデントアシスタント）には受講生3人が採用され、それぞれ勤務した。 【大】</p>
<p>次年度への課題 (2022年度)</p>	<p>1. 司書課程の授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2. 図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】</p>

■検討組織名：司書課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2021年 4月 6日	1. 司書課程ガイダンスの配付資料について 2. 司書課程の履修登録について 司書課程履修中の学生への対応 3. 司書課程の履修登録について 新入生への対応
2021年 6月 12日	1. 司書課程授業の履修登録・開講状況（前期）について 2. 司書課程の教員体制について 3. 夏季休暇中の集中講義の実施について 4. 「児童サービス論」の実演について
2021年 7月 24日	1. 司書課程授業の履修状況（前期）について 2. 司書課程授業の実施方法（後期）、「児童サービス論」実演休止等の対応について
2021年 10月 20日	1. 司書課程授業の開講状況（後期）について 2. 2022年度時間割（案）について 3. 2022年度PC実習室（A館11階）の利用について
2021年 12月 17日	1. 2022年度時間割（案）について 2. 2022年度PC実習室（A館11階）の利用について
2022年 1月 28日	1. 司書課程授業の開講状況（後期）について 2. 「図書館概論」受講生のアンケート結果について
2022年 3月 4日	1. 2021年度卒業生の司書資格取得状況について 2. 2021年度司書課程専門委員会の自己点検・評価報告（案）について 3. 2022年度時間割（案）について 4. 2022年度司書課程ガイダンスについて（4月6日・7日実施）

■ 検討組織名：国際交流委員会

報告者：石田 名都子

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 2. 本学学生の留学を促進できるような支援及び安全な留学実施対策を具体的に検討する。 3. 文化・語学研修専門委員会や他の語学研修プログラムとの連携を検討する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 2020年度に引き続き、新型コロナの影響により、海外提携校との交流ができなかったため、具体的な検討をするには至らなかった。 2. 学生の安全を確保する観点から、応募する際に、さまざまな制約や条件が付される可能性があること、場合によっては実施されないこともあることを予め了解する等の条件や実施基準を策定した。 2020年度から留学の実施を見送っていたが、2022年度実施のための募集を行い、選考の結果、希望者10人のうち、FIT 1人、AUB 4人、計5人の留学を許可した（その後、希望校の学費と寮費の値上げにより、2人辞退することとなった）。留学不許可となった学生へは、理由を説明し指導を行った。 また、2020年度から留学が延期されていた学生と意思確認のための面談を行い、5人のうち3人が2022年度及び2023年度の留学を希望したため、新規留学許可者と一緒に留学への準備を行うこととなった。 最終的な実施可否については基準をもとに、派遣先と連絡を取りながら決定する。 3. 「リスクマネジメントマニュアル」の見直しなど共通課題の検討が必要であるが、今年度も連携して検討するまでに至らなかった。引き続き、共通課題について、文化・語学研修委員会や他の海外研修プログラムとの連携を検討する。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 2. 本学学生の留学を促進できるような支援及び安全な留学実施対策を具体的に検討する。 3. 文化・語学研修委員会や他の語学研修プログラムとの連携を検討する。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2021年7月20日	1. 2022年度FIT・AUB特別留学プログラム募集について 募集要項に追加する内容の確認（・実施可否について ・実施条件について）
2021年12月3日	1. 各校の受入れ人数と時期などについて 2. 特別留学が延期となっている学生について 3. 2022年度FIT・AUB特別留学プログラム判定について 4. 特別留学プログラム許可者の今後のスケジュールについて

附 属 機 関 等

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者サービスの向上 2. 図書館資源の活用、設備の整備 3. 収蔵環境の管理 4. 資料データの標準化と次世代検索システムの検討 5. 学内行事、業務への協力 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. (1) MyCARIN (資料の予約、更新、取り寄せ、雑誌記事などの複写依頼、貸出履歴の確認などを Web 上で行うサービス) に希望資料申請(購入リクエスト)の機能を追加し、利用しやすくなるような魅力あるものとした。MyCARIN の利用数は、長期の臨時閉館があった 2020 年度と比べ減少したが、通常開館をしていた 2019 年度と比べると約 2 倍の 2,926 回(2 月末時点)の利用があり MyCARIN の利便性が周知された。 (2) 新たなデータベースを増やし、利用が輻輳するコンテンツはアクセス数を増やした。また、電子ブックは 2020 年度より資料費を増額し利用を促した。 (3) 学外からの VPN 接続によるデータベースや電子書籍の利用を促すため、長期休暇前などにも広報をした結果、2020 年度(9 月～3 月)の接続回数が 1,759 回、2021 年度(4 月～2 月)が 5,223 回と利用が増えた。 (4) 2021 年度もオンライン授業が継続していることに鑑み、図書館の使い方動画の改善、オンラインガイダンス、オンラインレファレンスやオンラインセミナーなどを継続して行った。 2. (1) 貴重書デジタルアーカイブに『雛形都の春』、『西川ひな形』の和装本 2 点の登録が完了し、コンテンツを拡充した。 (2) 貴重書デジタルアーカイブの既存データのバックアップ作業が終了し、データの安全性を高めた。 3. 小平キャンパスの売却に伴い、桜丘倉庫への引越を急遽行った。移動冊数を減らすため、重複図書の除籍を積極的に行った。桜丘倉庫に書架を移設・増設したことで、今まで段ボール箱で保存していた雑誌を中心に書架に配架することができ、管理がしやすくなった。小平キャンパスにあった貴重書は、新都心の稀観本室に書架を増設して移動し、良好な環境で保存できるようになった。また、今後 10 年の収蔵計画(案)の検討をはじめた。 4. 目録情報システム(CAT2020)を軌道に乗せ、問題なく業務を進めている。 5. 文化祭展示に代わるものとして、「地味にスゴイ」展を開催した。雑誌の創刊号、『VISIONAIRE』、Vivienne Westwood の超巨大ビジュアル本など、普段なかなか閲覧できない貴重で個性的なお宝本を展示し、来場者には楽しんでいただけた。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者サービスの向上 2. 図書館資源の活用 3. 収蔵環境の管理 4. 資料データの標準化と次世代検索システムの検討 5. 館内設備の整備 <p style="text-align: right;">【大】</p>

■検討組織名：文化学園大学図書館

開催年月日	会議等の開催記録（図書館委員会）
2021年7月2日	1. 新型コロナ対応について 2. 2020年度業務報告 3. 2020年度資料費決算・図書館利用状況報告 4. 2021年度業務計画・資料費予算決定報告
2021年12月1日	1. 2021年度業務計画進捗状況報告 2. 2022年度業務計画（案）・資料費予算（案） 3. 2022年度図書館カレンダーについての審議（2022年2月8日教授会承認） 4. 小平書庫の移転について

開催年月日	会議等の開催記録（部会）
2021年4月1日	1. 2021年度図書館業務計画 2. 組織編成・各課業務分担・業務グループ担当発表 3. 2021年度資料費予算・教育経費予算について
2021年5月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 旧H館跡地について
2021年6月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 小平キャンパス売却に伴う書庫移転について
2021年9月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 図書館委員会報告 4. 書庫移転報告
2021年11月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 「地味にスゴイ」展について 4. 貴重書デジタルアーカイブについて 5. 桜丘倉庫の管理運用について
2022年1月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 桜丘倉庫の管理運用について
2022年2月28日	1. 各課報告 2. 電子書籍の収集について

開催年月日	会議等の開催記録（運営会議）
2021年4月6、21日	1. 各課報告 2. 新型コロナ対応について
2021年 5月12、26日	1. 各課報告 2. 新型コロナ対応について 3. 図書館委員会について
2021年 6月9、22、24日	1. 各課報告 2. 6月以降の図書館サービスについて 3. 小平書庫の管理運営について 4. 図書館委員会
2021年 7月14、28日	1. 各課報告 2. 電子書籍の収集方針・費目について 3. 小平書庫の移転について
2021年9月8、22日	1. 各課報告 2. 電子書籍の収集方針・費目について 3. 小平書庫の移転について 4. 研修会について
2021年 10月13、26日	1. 各課報告 2. 小平書庫の移転について 3. 図書館委員会について 4. 図書館中長期計画（案）について
2021年 11月10、17、25日	1. 各課報告 2. 2022年度予算編成 3. 2022年度業務計画（案） 4. 図書館委員会 5. 桜丘倉庫の管理運用について 6. 図書館中長期計画（案）について
2021年12月1、8日	1. 図書館委員会 2. 各課報告 3. 2021年度予算消化状況 4. 桜丘倉庫の管理運用について
2022年 1月11、26日	1. 各課報告 2. 2021年度予算消化状況 3. 桜丘倉庫の管理運用について 4. 図書館中長期計画（案）について
2022年2月8、22日	1. 各課報告 2. 2021年度予算消化状況 3. 桜丘倉庫の管理運用について 4. 図書館中長期計画（案）について
2022年3月8日	1. 各課報告 2. 2021年度予算消化状況 3. 2022年度組織編成・業務分担 4. 図書館中長期計画（案）について

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症予防のためのルールの告知と実施の徹底を図り、安全な博物館活動に努める。 2. 設備の更新計画として、空調の適切な運転に関する検討を継続し、電力コストの削減に努める。展示ケースのメンテナンスと、飛散防止ガラス板への交換について継続検討する。 3. 新宿文化クイントビル地下3階収蔵庫、F館地下収蔵庫、小平キャンパス内保管室の3か所における、資料それぞれの重要性に合わせた効率的な収蔵を継続して進める。 4. 館内業務の効率化及び継続性を確保するためのOJT教育を継続して進める。 5. 学校教育における博物館展示の利用機会向上を目指し、適切な展示運営及び情報発信のあり方を継続して検討する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症予防のためのルールの周知と実施の徹底を図った。HPにて「ご来館にあたってのお願い」と題して、来館前の検温、来館時のマスク着用、手指消毒、社会的距離の確保など注意を喚起した。また、HPと同様の掲示物をエントランスに置くことで、入館時にも注意を促した。 2. 空調の運転方法については、施設部からの協力を得て、季節ごとに最適な運転方法を検証した。展示替え期間中に空調運転の完全停止期間を設けることも含めて、今後も省電力を意図した対応を進める。展示ケースの飛散防止ガラス板への交換は継続検討する。 3. 新宿文化クイントビル地下3階、F館地下の収蔵施設において、収蔵庫を整理するための時間を定期的に設けることで、資料の重要性に合わせた効率的な収蔵を進めた。これにより、小平キャンパスの保管資料を、新都心キャンパスへ移動できた。 4. 業務のOJT教育は学芸員及び学芸アシスタントに対して年間を通して実施した。その結果、作業効率を高めることができ、生み出された時間を活用して収蔵庫内の整理や配置転換を進めることができた。 5. 適切な展示運営については、コロナ禍における学内利用者の減少に鑑み、これまでの年4回の企画展示を見直し、これを3回として残り1回を外部持ち込み展示とすることとした。情報発信のあり方については、インターネットを用いた情報を検討し、そこで得られたアイデアを実現するため、HPのリニューアルを行った。 <p>以上、2021年度の課題に対して90%実行できた。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における博物館の利用機会（展示見学及び授業利用）の向上を図り、新しい連携企画や情報発信の充実を検討する。また、外部持ち込み展示における受け入れ体制の振り返りを行いその効果を把握する。 2. 設備関係について、汚損した展示台の修理及び展示室の空調を季節の温湿度変化に合わせた省力運転を推進する。また、展示ケースの飛散防止対策については、ガラス板の交換又はフィルム貼付を検討する。 3. 所蔵資料の定期的整理と再評価を行い、資料個々の重要性に合わせ、適切な収蔵を目指す。 4. 館内業務の効率化を図るとともに、継続的運営を確保するためのOJT教育を継続して進める。 <p style="text-align: right;">【大】</p>

■検討組織名：文化学園服飾博物館

開催年月日	会議等の開催記録
2021年2月18日 ～4月22日	<p>「ヨーロッパ・モード展」を開催した。宮廷が流行を生み出した18世紀から、産業の発達や社会の成熟とともに変化する19世紀を経て、若者や大衆が流行の担い手となった20世紀末までの、ヨーロッパを発信源とする約250年の女性モードの変遷を、社会背景とともに紹介した。</p> <p style="text-align: right;">会場：文化学園服飾博物館</p>
2021年5月21日 ～6月27日	<p>「Dreams- to be continued -高田賢三回顧展」を開催した。文化服装学院の卒業生であり、1970年代から80年代のパリモードを牽引した高田賢三氏（2020年10月逝去）の足跡を、文化学園に保管されている多くの服飾作品や文化出版局での取材記事、写真などで紹介した。</p> <p style="text-align: right;">会場：文化学園服飾博物館</p>
2021年7月15日 ～9月28日	<p>「公益社団法人京都染織文化協会創立80周年記念 再現 女性の服装1500年—京都の染織技術の粋—展」を開催した。京都の染織技術を集め、昭和初期に復元された、古墳時代から明治時代に至る女性の衣服を一覧的に展示することで、日本の女性服装の変遷を紹介した。</p> <p style="text-align: right;">会場：文化学園服飾博物館</p>
2021年11月1日 ～2022年2月7日	<p>「民族衣装—異文化へのまなざしと探求、受容—展」を開催した。民族衣装が描かれた書物や、民族衣装の研究、フィールドワークに焦点を当て、欧州や日本において、アジアやアフリカの民族衣装がどう捉えられてきたかを紹介した。</p> <p style="text-align: right;">会場：文化学園服飾博物館</p>
2021年12月17日	<p>博物館運営委員会を開催し、1. 2021年度 事業計画の進捗状況、2. 2022年度 事業計画概要を報告した。出席した委員より報告に関する意見を聞き、今後の博物館の運営及び企画について協議した。</p>

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育支援体制の継続 2. 産学交流推進の継続 3. 外部への情報公開と交流促進の継続 4. 各資料室データベースの更新・拡充 5. 各資料室の資料検証及び利用・収集・整理方法の検討 6. 外部倉庫(所沢、小平)移管の資料整理 7. ファッションリソースセンター運営会議の開催 8. 人員補充についての検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各資料室(映像・テキスタイル・コスチューム)ともに共にソーシャルディスタンスを保ちながら学内・学外に対してレファレンスを行った。見学、利用者に対して利用方法や収集資料に認知を広めた。 映像資料室：映像資料の収集(提供・購入)を学内に公開し、教材として貸出しを行った。 テキスタイル資料室：テキスタイル産地その他企業提供による素材を収集し配架。教材として貸出しを行った。文化学園大学服装学部ファッションショーの関連資料を受入。整理、配架を行った。 コスチューム資料室：学生制作作品、購入、寄贈など教材用標本を収集・公開・配架し授業に活用した。また、外部展示や映像作品への貸出しを行った。 企画室：学生支援企画展示 Studio oeuf(スチューデュオ ウフ)を運営し学内外での実施やWebを利用して開催した。企業共賛のデザインコンテストは感染対策を施し公開審査を開催した。 2. 織物産地との共同事業による現地体験学習、産地見学研修、展示会、コラボレーションなどは2022年度開催に向けて担当者と協議を重ねた。 3. 外部への情報公開(有料会員制)対応として「文化学園ファッションリソースクラブ」を運営し一般利用者(会友)・卒業生(正会員)・企業(賛助会員)への会員導入を行った。学内広報誌「ファッションリソースセンターだより」を発行、学内及び来館者、入学希望者などに配布した。 4. テキスタイル資料室・コスチューム資料室のデータベースにデータ追加及び調整をした。 5. 映像資料室：未登録のコレクション画像のデータ化に着手した。 コスチューム資料室：学園創立100周年の記念行事を見据え歴史的資料の整理に着手した。 6. 小平：小平校舎売却のため新都心キャンパスに移管。整理について2022年度も継続して検討。 所沢：収納・デリバリー用に整理番号貼付作業を行い、2022年度も継続。 7. 継続して検討中。 8. 継続して検討中。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育支援体制の継続 2. 産学交流推進の継続 3. 外部への情報公開と交流促進の継続 4. テキスタイル・コスチューム資料室データベースの更新・拡充 5. 各資料室の資料検証及び利用・収集・整理 6. 所沢倉庫の資料整理 7. ファッションリソースセンター運営委員会の開催 8. 人員補充についての検討 <p style="text-align: right;">【大】</p>

■検討組織名：文化学園国際交流センター

報告者：横山 淳

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. オンラインによる海外提携校との交流や特別留学プログラムの検討 2. オンラインによる提携校の教員や関係者のセミナー、特別講義等の実施 3. 関連各部署との連携及び情報の共有に努める 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. (1) 海外提携校との往来は困難な状態が続いているが、新型コロナ感染拡大前から交流のあった韓国の啓明大学校ファッションデザイン学科とのオンラインによる交流型セミナーが2月に実現した。教員同士の意見交換もリモートで行われ、今後の新たな交流のあり方を考える貴重な機会となった。 (2) 特別留学プログラムによる米国 FIT、英国 AUB への本学学生の派遣は、新型コロナ感染拡大の影響で2021年度も見送りとなった。2022年度には、2020年度の留学を希望し延期となっていた2人も含めて派遣を予定している。 2. (1) 5月にイタリアの提携校マランゴニ学院の教授によるスタイリング Web セミナーを文化学園の学生限定で開催したほか、2月には韓国の啓明大学校ファッションデザイン学科との交流型オンラインセミナーを共催し、前者には約100人、後者には約70人の学生と教職員が参加した。 また、提携校である韓国の青江文化産業大学校やイタリアのマランゴニ学院が主催するオンラインセミナー、英国やイタリアのファッション関連団体が主催する Web セミナーシリーズの情報などを計15回、学生に Gmail で配信し、海外のファッション情報を英語や韓国語で学ぶ機会を提供することができた。 (2) これまで開催したセミナーの効果を確認するため、参加者アンケートを分析した。その結果、コロナ禍でも海外のファッション動向に興味を持つ学生が多いことが確認でき、学生の関心が高いテーマや要望も明らかになった。今後の企画立案の際にはこれらを踏まえて検討していく。 3. (1) 文化学園各校が望むプログラムを実施するため、関係部署や担当教員への聞き取りを行った。まずは今後注力していく海外コンテストについて確認し、主要なコンテストに関してはセミナーを実施するなど、学生の応募につながるサポートを開始した。また、多様なコンテスト情報を学生に Gmail で配信し、ホームページからも気軽に相談ができる体制を整えた。その結果、窓口相談に訪れる学生も少しずつ増え、応募学生の動きを把握できるようになった。 (2) 国際交流センターのイベントやニュースを伝える「グローバル通信」を教職員に向けて不定期にメール配信したほか、パリ事務所の所長が現地の最新情報を伝える「パリ通信」や現地で活躍する日本人へのインタビュー記事を学生と教職員に Gmail で配信し、学内におけるグローバル意識の向上に努めた。 【共】</p>
<p>次年度への課題 (2022年度)</p>	<p>1. 海外提携校との交流内容の見直しと教育部門のニーズに沿ったプログラムの検討 2. 教育効果の高いグローバルセミナーやレクチャーの実施 3. 関連各部署との連携強化と情報の共有 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>新型コロナの感染拡大による渡航禁止や緊急事態宣言等の発令に伴い、海外事務所長の来日が叶わず、例年、現地の情報を4校で共有するために参集していた「4校合同会議」は中止し、オンラインで連絡を取り合った。また、各学校の業務が多忙となったため、「グローバル推進委員会」の意見交換も休止した。</p>

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進 (1)特許、実用新案、意匠、商標等の知的財産権について教職員の意識を高め、高等教育機関としての知的活動を推進する。 (2)文化学園の諸活動において、知的財産の活用についてのサポートを行う。</p> <p>2. 知的財産の更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。</p> <p>3. 知的財産侵害行為の防止 他者の著作物の無断使用や模倣等、知的財産権の侵害にあたる行為を防止するため、教職員への啓発、そして教職員から学生への教育指導と繋がる周知活動を推進する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. (1)知的活動の推進 本学の研究成果について、以下の商標出願を行った。 商願 2021-105533「エンカルザンプ」(2021年8月25日出願) 【大】</p> <p>(2)知的財産の活用についてのサポート ・授業目的公衆送信補償金制度の利用申請を行った。 【共】 ・授業目的公衆送信補償金制度利用報告についての調査・対応をした。 【大】 ・令和3年通常国会著作権法改正についての調査・対応をした。 【共】</p> <p>2. 以下について権利更新を行った。 ・特許第4198152号「模擬皮膚装置およびそれをを用いた特性評価方法」 【大】 ・特許第5019555号「新規洗浄剤」 【大】</p> <p>3. 以下の知的財産侵害行為の防止活動を行った。 ・知財センター運営委員に、新たに教員を任命。 【共】 知財に係る知見が教員間で蓄積・共有され、学生への教育指導と繋がる体制づくりを図った。 ・知財に係る研修会やセミナーについて、学内に情報提供をした。 【共】 ・著作権等、知財に係わる学内の個別相談に対応した。 【共】</p> <p>以上、2021年度の課題に対して100%を実行できた。</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進 特許、実用新案、意匠、商標等の知的財産権について教職員の意識を高め、高等教育機関としての知的活動を推進する。</p> <p>2. 知的財産の権利更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。</p> <p>3. 知的財産の活用 文化学園の諸活動において、知的財産の活用についてのサポートを行う。</p> <p>4. 他者の知的財産権を侵害する行為の防止 他者の著作物の無断使用や模倣等、知的財産権の侵害にあたる行為を防止するため、教職員への啓発、そして教職員から学生への教育指導と繋がる周知活動を推進する。 【大】</p>

■検討組織名：文化学園知財センター

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月5日	文化学園知財センター小委員会 1. 産学連携における権利の持分について
2021年6月25日	文化学園知財センター小委員会 1. 創作における模倣と盗用について
2021年7月9日	文化学園知財センター運営委員会 1. 「エンカルザンプ」の商標出願について
2021年8月20日	文化学園知財センター小委員会 1. 特願 2019-177496 「ニット製品の作製方法」補正手続について
2021年10月1日	文化学園知財センター小委員会 1. 商標の使用について
2021年10月8日	文化学園知財センター小委員会 1. 引用のルールについて
2021年10月11日	文化学園知財センター小委員会 1. 知財教育について
2021年10月18日	文化学園知財センター小委員会 1. 公開美術の著作物の利用について
2021年11月1日	文化学園知財センター小委員会 1. 産学連携の成果における学生の権利について
2021年12月13日	文化学園知財センター運営委員会 1. 知財センター運営委員の役割について 2. 2020年度報告 (1) 権利化活動 (2) 権利更新・管理 (3) 啓発活動 (4) 規程改定 (5) 授業目的公衆送信補償金制度 3. 2021年度活動 (1) 権利化活動 (2) 権利更新・管理 (3) 著作権侵害行為の防止 (4) 授業目的公衆送信補償金制度 4. 令和3年通常国会著作権法改正について 5. 事例研究
2021年12月24日	文化学園知財センター小委員会 1. 地図の著作権について
2022年1月28日	文化学園知財センター小委員会 1. 「収納に特化した内ポケット」の意匠出願について
2022年3月3日	文化学園知財センター運営委員会 1. 特願 2018-098872 「介護用パジャマパンツ」の特許査定について

■ 検討組織名：USR 推進室

報告者：松田 祐之

提出日：2022年3月31日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討（企業対応グループ） 2. 地域と連携した活動の計画と実践（地域対応グループ） 3. 環境や社会に配慮した教育の実践（社会環境対応グループ） 4. 卒業生対応のネットワーク構築と卒業生対応イベント実施（卒業生対応グループ） 5. AP長期学外学修プログラム事業の計画と実施（AP事業対応グループ） 6. 産学連携及び渋谷区との連携協定（S-SAP）事業の計画と実施（産学連携 S-SAP 対応グループ） 7. ファッションデジタル対応グループの新設（ファッションデジタル対応グループ） 8. 組織体制の見直しについて 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナのため、すべての事業を中止した。 2. 新型コロナのため、すべての事業を中止した。 3. 東京ビックサイトで開催された「エコプロ 2021」（12月8日-10日）に出展しアップサイクル作品の展示やUSR推進室の取り組みの紹介等を行った。 4. 新型コロナにより文化祭がオンラインとなったため卒業生対応イベント事業を中止した。卒業生とのネットワークのあり方について協議し、継続的に検討していくこととした。 5. 国内3プログラムの実施にむけて準備を進めたが、新型コロナの感染拡大により、中止した。 6. 三越伊勢丹ユニフォーム事業部との産学連携事業「第1回ユニフォームファッションデザイン画」コンテストを7月に実施した。9月29日に最優秀賞・審査委員賞・三越ユニフォーム賞受賞者3人を表彰した。S-SAPに基づき東京2020渋谷区文化プログラム MERRY SMILE SHIBUYA2020に国際文化・観光学科の学生が参加した。 7. ファッションデジタル対応グループ：BFDA（Bunka Fashion Digital Academy）を発足させ、BFDA未来セミナーと題したオンラインセミナーを2回（7月29日・2月17日）実施した。 8. 2021年度より S-SAP 対応はより広く産学連携にも対応することとし、産学連携 S-SAP 対応グループとした。2022年度より、企業対応グループと卒業生対応グループを統合する。 【共】
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討及び卒業生対応のネットワーク構築と卒業生対応イベント実施（企業・卒業生対応グループ） 2. 地域と連携した活動の計画と実践（地域対応グループ） 3. 環境や社会に配慮した教育の実践（社会環境対応グループ） 4. AP長期学外学修プログラム事業の計画と実施（AP事業対応グループ） 5. 産学連携及び渋谷区との連携協定（S-SAP）事業の計画と実施（産学連携・S-SAP 対応グループ） 6. ファッションデジタル分野の研究の計画と実施（ファッションデジタル対応グループ） 【大】

■検討組織名：USR 推進室

開催年月日	会議等の開催記録
2021年5月13日	第1回USR委員会 1. 2021年度組織体制について (1)統括部門強化 (2)事業活動対応グループの追加・改編 (3)ファッションデジタル対応グループ新設 ～ファッション分野におけるデジタル対応、研究支援 (4)S-SAP 対応に産学連携対応を加える (5)新規参加メンバー紹介 2. 2021年度事業予算について
2021年9月27日	第2回USR委員会 1. 2021年度の組織体制について (1)運営体制強化 (2)担当替え (3)新規メンバー紹介 2. ファッションデジタル対応グループ新規発足について (1)発足の主旨 (2)活動内容等 (3)メンバー紹介 3. 今後の事業活動について 4. その他
2021年12月14日	第3回USR委員会 1. 本年度の事業 2. 2022年度組織体制 (1)新執行部メンバー (2)事業活動グループの見直し (3)企業対応グループと卒業生対応グループの統合 (4)メンバーの異動と新規加入メンバー紹介
2022年2月25日	第4回USR委員会 1. 各グループ事業活動 (1) AP 事業対応グループ：AP 長期学外学修プログラム3事業の中止について (2)ファッションデジタル対応グループ：オンラインセミナーの実施報告 (3)社会環境対応グループ：ファッションクリエイション学科のアップサイクル作品の有楽町マルイでの展示について (4)卒業生対応グループ：2021年度卒業生の連絡先登録についての依頼 2. 2022年度USR推進室 組織体制について 3. 2022年度 月別事業計画・予算計画表 提出について 4. USR推進室 新リーフレット制作について

共同研究拠点

■検討組織名：文化ファッション研究機構

報告者：米山 雄二

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 共同利用を中心とした研究事業の継続推進 2. 学園内の附属研究所を基盤とした研究の推進 3. 本機構の所有する研究資料（主に図書）の共同利用の検討 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 2021年度予定していた共同利用を中心とした研究事業は、以下のとおり。 (1) 学園内公募型共同研究 本学園の研究分野が人体計測等対面での実験、国内外での現地調査が必要となる研究が大半であり、コロナ禍でそれらの研究遂行は困難となることが予測されるため、2020年度に引き続き、2021年度の公募は見送った。 (2) 若手研究者への支援体制 本機構は、学園全体（各学校）の若手教員の育成及び継続的に研究を進めることができるよう支援を行っており、2021年度は若手教員研究奨励金による研究助成5件について、研究費の交付に加え、本機構の研究企画委員がアドバイザーとなって、研究推進のサポートを行った。また、2020年度同奨励金の研究助成4件の成果発表会を行う際にも、同様にアドバイザーがサポートし、各研究者の一助となった。 2021年度より同奨励金交付者への文化学園大学主催の研究倫理研修会及びコンプライアンス研修会の受講を義務化、理解度を把握し、必要に応じてアドバイスを行った。また、研究倫理委員会の協力を得て、同奨励金の研究に関する研究倫理審査については、文化学園大学以外の学校の研究者であっても文化学園大学において審査ができる体制を整備した。 その他、同奨励金の対象者について見直しを行い、学校法人文化学園職員就業規程第9条による休職により、研究活動を休止したことがある満40歳以上満43歳以下の者を同奨励金の対象とする「文化ファッション研究機構若手教員研究奨励金規程に関する申合せ事項」を策定し、2022年4月1日から施行する。 2. 本機構運営委員会において、学園内附属研究所5研究所（文化・服装形態機能研究所、文化・衣環境学研究所、文化・住環境学研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所、和装文化研究所）の情報共有及び共通課題を検討し、研究の推進に努めた。 3. 本機構が所有する研究資料については、2020年に引き続き、学内外の共同研究員に貸出中の資料を返却いただき、確認・整理を進めた。未返却資料については、個別に対応し、整備を行ったため、2022年度には共同研究員に利用可能予定である。 以上、2021年度の課題に対して90%を実行できた。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. 共同研究及び若手教員研究を中心とした研究事業の継続推進 2. 学園内の附属研究所を基盤とした研究の推進 3. 文化ファッション研究機構による情報発信 【大】</p>

■検討組織名：文化ファッション研究機構

開催年月日	会議等の開催記録
2021年10月27日	1. 2021年度 第1回研究企画委員会 (1)2020年度若手教員研究奨励金成果発表会について 開催形式及び日時・司会進行担当の確認、アドバイザーの決定、成果報告書の様式の確認 (2)2022年度若手教員研究奨励金の募集について 交付予定数、募集開始日、応募締切り等のスケジュールの確認
2021年12月3日	1. 第10回 若手教員研究奨励金成果発表会 発表者 4人（文化学園大学3人、文化服装学院1人） 録画視聴期間（学園内3校教員対象） 2021年12月7日～2022年1月31日まで
2022年2月18日	1. 2021年度 第2回研究企画委員会 (1)若手教員研究奨励金について 2022年度交付者の選出、申請者への評価コメントのフィードバック、アドバイスが必要な申請者への支援担当者の決定 (2)若手教員研究奨励金の応募資格について 文化ファッション研究機構若手教員研究奨励金規程改定案及び文化ファッション研究機構若手教員研究奨励金規程に関する申合せ事項案について審議 (3)文化ファッション研究機構規程及び文化ファッション研究機構研究企画委員会規程の改定について 講師の職の削除、文化学園大学短期大学部廃止による同短期大学部の記載削除に伴う上記規程の改定 (4) 2021年度若手教員研究奨励金の辞退者報告 (5) 委員の任期について（確認）
2022年3月8日	1. 2021年度 第1回運営委員会 (1)2021年度事業報告 文化・服装形態機能研究所、文化・住環境学研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所、和装文化研究所、文化・衣環境学研究所、文化ファッション研究機構の事業報告及び2021年度共同研究員の新規登録者の報告 (2)2022年度文化ファッション研究機構事業計画 若手研究者の育成を重要課題とし、若手教員研究奨励金の取組みを強化 服飾文化に関する講演会及び研究会の企画検討 (3)2022年度若手教員研究奨励金交付者について 申請者の審査結果報告及び交付者の決定 (4)その他 文化学園大学の講師の職の削除、並びに文化学園大学短期大学部廃止による同短期大学部の記載の削除に伴う本機構に係る規程改定、文化ファッション研究機構若手教員研究奨励金規程第6条の改定（2022年4月1日改定施行）報告

附 属 研 究 所

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化・衣環境学研究所「学内研究プロジェクト助成金」の公募件数増加策を検討し、学内の研究活動の活性化を図る。 2. 研究成果の公表について、引き続き服装学部の研究発表会との連携を深め、研究発表と交流の場の拡大を図る。 3. コロナ禍の研究への影響の大きさに鑑み、今後に向け、感染症対策をとりつつ実験を安全に遂行するために必要な規程の整備を行う。 4. 保有する研究設備の更新及び新規設備の購入を計画的に進めるため、科学研究費助成事業、及び共同研究・委託研究等の外部資金の獲得を推進する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度「学内研究プロジェクト助成金」は、2018年度に設定した目的、名称、助成上限金額、公表義務、申請者の条件のもと継続実施し、文化学園大学及び短期大学部に所属する教員が行う衣環境学に関する研究活動の推進を図った。2021年度の公募には3件の申請があり、審査の上、全3件を承認・採択した。2021年度は、前年度研究期間変更の1件を含め、全4件の共同研究が実施された。2022年度の学内研究プロジェクト助成金については12月に公募を行い、2件の申請があり、審査の上、全2件を承認・採択した。 2. 2020年度に採択した学内研究プロジェクト4件のうち、期間変更を行った1件を除き、2021年5、6月に学外での学会発表2件、同9月に学内研究発表会で1件の発表が行われ、研究成果の公表が定着した。 3. 研究活動における感染防止策については、本邦における各大学及び研究機関がコロナ禍で実施してきた対応策を調査し、今後の規程等整備に向け情報の集積を行った。 4. 科学研究費助成事業への応募及び外部との共同研究・受託研究は、研究テーマの性質上、人を対象とした実験となるため、新型コロナ感染防止の点から積極的な実施は困難と判断した。また、研究設備については部分更新を行い、今後も計画的に進めていく。 <p>以上、2021年度の課題に対して、80%を実行できた。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化・衣環境学研究所「学内研究プロジェクト助成金」の公募件数増加策を検討し、学内の研究活動の活性化を図る。 2. 研究成果の公表について、引き続き学内外での研究発表による、本学の知的資源の社会発信を図る。 3. 学内研究支援の観点から、勉強会・講演会等の開催により、交流の場の拡大を図るとともに、本学教員の職能開発に向けた貢献を行う。 4. 保有する研究設備の更新及び新規設備の購入を計画的に進めるため、科学研究費助成事業への申請及びコロナ禍の状況を見つつ共同研究・委託研究による外部資金の獲得を試みる。 【大】

■検討組織名：文化・衣環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
2021年4月1日	2021年度学内研究プロジェクト助成金公募への申請3件について、研究代表者へ採択を通知
2021年10月19日	第1回運営会議 2022年度学内研究プロジェクト助成金の公募内容 2020年度から2021年度に期間変更した研究の成果公表 2021年度コロナ禍における研究方法の変更 研究成果の公表状況の確認 以上4件を協議した。
2021年11月9日	文化学園大学教授会にて、2022年度学内研究プロジェクト助成金の公募を周知
2022年3月16日	第2回運営会議 2022年度学内研究プロジェクト助成金の申請2件について審査し、2件を採択 2021年度学内研究プロジェクト助成金の研究概要及び決算報告書の提出通知について確認 2022年度の活動方針並びに共同研究への応募者数増加の方策を検討

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共同研究の推進 2. 参画教員の拡大 3. 若手教員の研究活動の支援 4. 所報「しつらいVol.9」の発行 5. 文化・住環境学研究所主催の講演会・見学会等の新規企画の準備 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共同研究の推進 2018年度から公募範囲を全学として、下記の3カテゴリーに分けて公募した。 <Ⅰ. 共同研究（教材開発を含む）>：学内外の複数人で行う共同研究 <Ⅱ. 共同制作（教材開発を含む）>：学内外の複数人行う共同制作 <Ⅲ. 若手による研究・制作>：40歳未満の教員（助手含む）が代表者で行う共同研究・制作。 その結果、研究所運営会議において下記の6件の研究が採択されたが、新型コロナの影響等により上記のうち3件の共同研究が実施できなかった（①、③、⑤）。 ①長野県須坂市における古民家再生プロジェクトに関する研究（Ⅰ） ②戦後日本における建築文化の創造過程とその背景に関する研究（Ⅲ） ③大規模マンションにおける共用空間の利用とコミュニティ活動の経年的変化に関する研究（Ⅰ） ④アニメーション・ワークショップの実施環境と教材の研究（Ⅰ） ⑤国宝重要文化財建造物における彩色技術と手法に関する研究（Ⅰ） ⑥3D・CG技術を使用したファッションデザインのためのツール開発・作品製作Ⅲ（Ⅱ） しかしながら、コロナ禍において当初の研究計画を柔軟に変更し3件の研究を実施できたことは評価できる。これらの研究については2022年度以降の学内研究発表会のほか、学会発表や一般メディアを通じて広く社会に対して公表する予定である。本学文化祭での研究助成を行った共同研究（2019～2020年度）のパネル展示は、全学的にオンライン文化祭へ変更されたことに伴い実施しなかった。 2. 参画教員の拡大 上記研究テーマのうち実施できた②④⑥は学外者も参画する共同研究であり、当初の目標を達成できたことは評価できる。 3. 若手教員の研究活動の支援 上記研究テーマのうち、②は若手教員が代表者として行われた共同研究であり、当初の目標を達成できたことは評価できる。 4. 所報「しつらいVol.9」の発行 2021年度は所報「しつらいVol.9」の編集を行い、無事発行することができた（隔年発行）。特集のテーマを「アート・デザインがつなぐ多様性」とし、学外識者へのインタビューや学内教員の研究活動を寄稿として掲載した。結果、充実した誌面となり、文化・住環境学研究所の活動を広く公表できたことは評価できる。 5. 文化・住環境学研究所主催の講演会・見学会等の新規企画の準備 新規企画として講演会等を予定していたが、コロナ禍ということもあり2022年度以降に見送ることとなった。 【共】
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共同研究の推進 2. 参画教員の拡大 3. 若手教員の研究活動の支援 4. 所報「しつらいVol.9」の見直し、及び「Vol.10」への準備 5. 文化・住環境学研究所主催の講演会・見学会等の新規企画の準備 【大】

■検討組織名：文化・住環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
2021年7月6日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運営委員の確認 2. 2021年度の事業内容の確認 3. 2021年度予算の確認 4. 所報「しつらいVol.9」の編集作業のお願い 5. 今後の作業についての確認 6. その他
2021年11月2日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度共同研究の確認 2. 2022年度研究所の予算申請の確認 3. その他
2022年3月23日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度共同研究の実施報告 2. 所報「しつらいVol.9」の発行の報告 3. 2022年度の事業計画 4. その他

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」コラボレーション科目をはじめとする授業の運営を継続・実施する。 【共】 2. 和装関連科目の充実を図る。新カリキュラムでの新たな科目の検証をしつつ進めたい。 【大】 3. 新型コロナの状況を見ながら、ゆかたウィーク、勝手にキモノの日、着付教室、研究会などのイベントを開催する。 【共】 4. 外部との連携強化を図る。 【共】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。 (2) (株)三松とのコラボ・ツイッターを継続・展開する。 5. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究課題の公募を再開するための準備をする。 【共】 (2) 学園内のファッション資料のアーカイブ化を推進する。リソースセンターの資料、和装研の資料、テキスタイル研の資料のデータ化を進める 【共】 (3) 2019年度末に中止となった文化服装学院の教員によるセミナーを開催する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>2021年度も2020年度に引き続き、新型コロナ感染拡大防止のため、課題の一部は十分な取り組みができなかった。それらは継続して2022年度以降の課題としたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の科目としては「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」を運営した。また、コラボレーション科目の「きものコーディネート入門2021」「タイの学生と一緒にファッションを学ぼう2021」は、新型コロナ感染対策のため内容や形態を変更して実施した。 【共】 2. ファッションクリエイション学科の新カリキュラムに従って増設した2科目のうち、「和装文化演習Ⅱ」は残念ながら登録者が少なく、非常勤講師の科目であったため2020年度に続き開講できなかった。 【大】 3. イベントはすべて中止とした。着付教室は延べ20人ほどの希望者に随時実施した。 【共】 4. きものプレインとの連携は今年度も行わなかったが、来年度以降の継続を確認している。 【共】 5. (2) 学園内のリソースのアーカイブ化を図った。テキスタイル研究所所蔵の型柄帳類について、紀要第53集に報告した。立命館大学ARCの研究会で、当該アーカイブの紹介を行った。 【共】
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」コラボレーション科目をはじめとする授業の運営を継続・実施する。 2. 和装関連科目の充実を図る。新カリキュラムでの新たな科目の検証をしつつ進めたい。 3. 新型コロナの感染状況を見ながら、ゆかたウィーク、勝手にキモノの日、着付教室、研究会などのイベントを開催する。 4. 外部との連携強化を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。 (2) (株)三松とのコラボ・ツイッターを継続・展開する。 5. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究課題の公募を再開するための準備をする。 (2) 学園内のファッション資料のアーカイブ化を推進する。リソースセンターの資料、和装研の資料、テキスタイル研の資料のデータ化を進める。また短期大学部ファッション学科研究室の資料整理についても協力する。 (3) 2019年度末に中止となった文化服装学院の教員によるセミナーを開催する。 【大】

■検討組織名：文化・ファッションテキスタイル研究所

報告者：宮本 英治

提出日：2022年4月1日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り」技術の継承保存資料などのデジタル化を推進する。2020年度の実績約200件以上を目指す。 2. 研究所独自のテキスタイルの試作・開発点数20~30種類を目指す。 3. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 4. テキスタイル産地を活性化するための指導を実施する。 5. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義、学生の服作りのためのテキスタイル制作を実施する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り技術」の継承保存のために各種資料のデジタル化に日常的に取り組み、約170件をデジタル化した。 2. 研究所独自のテキスタイル開発を日常的に実施し、多重織・ドビー織などの斬新なテキスタイルを約40点開発した。 3. 「株式会社リューズ纏」と協働して開発したテキスタイルを使用した服が、春夏と秋冬2回のプレゼンテーションや展示会で披露され、高評価を得た。 「石見銀山生活文化研究所」の受託事業で19組織142点のテキスタイルを試作開発した。 4. 八王子産地の織物関連業者や「石見銀山生活文化研究所」などのテキスタイル開発や活性化のための技術指導・見学受入れなどを実施した。 5. 文化学園大学をはじめ文化学園の教職員や学生の見学・研修を受入れ、テキスタイルの一般知識の修得や生産現場におけるテキスタイル作りを理解してもらうことができた。 文化学園学生の卒業制作のためのテキスタイル作りを指導した。 6. 学園創立100周年記念用のストール制作が決定し、使用原料や織組織など織物の企画設計やマス見本試作を進め、現物生産のための経糸を製織機に仕掛けた。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学園創立100周年に向けて、記念ストールの生産を進める。 2. 研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り」技術の継承保存資料などのデジタル化を推進する。2021年度の実績約170件以上を目指す。 3. 研究所独自のテキスタイルの試作・開発点数30点を目指す。 4. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 5. テキスタイル産地業者やファッション関連業者を活性化するための指導を実施する。 6. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義、学生の服作りのためのテキスタイル制作を実施する。 <p style="text-align: right;">【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>2022年2月22日</p>	<p>第1回文化・ファッションテキスタイル研究所 オンライン運営委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究所来所者の件数・人数等の報告 2. 「リューズテン」「石見銀山生活文化研究所」など産学連携について 3. 文化学園学生に実施した研修・卒業制作・講義などについて 4. 学園創立100周年に向けた記念ストール生産について

事 務 局

■ 検討組織名：全学 SD 委員会

報告者：清木 孝悦

提出日：2022 年 4 月 1 日

<p>本年度の課題 (2021 年度)</p>	<p>1. 退学者等を減らすための方策について、退学者数等の経緯と現状を分析し、教員と連携しつつ、学生支援の環境が整えられるよう検討する。</p> <p>2. 学外の研修会などに参加し、他大学の状況などの情報を収集し、学生の支援体制の充実を図る。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 2016 年度～2019 年度間の退学者数が増加傾向にあったが、2020 年・2021 年度は減少となった。退学理由で一番多い理由は経済的困窮（学費未納除籍者を含む）だが、2021 年度は 2020 年度より減少している。それは、2020 年度から始まった高等教育修学支援新制度によるものと推測される。しかし、心神耗弱による退学者が増えた学科もあるため、引き続き状況を把握しながら対策を検討する。</p> <p>2. 新型コロナの影響により、オンライン形式ではあるが、外部団体が主催する研修会が再開され、他大学等の状況や情報を得るために、代表職員が参加した。学生支援体制の充実を図るために、他大学等の事例など大変有効なため、参加者にとって、有意義な研修会となった。（4 団体研修会 12 人参加）</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022 年度)</p>	<p>1. 高等教育修学支援新制度がどの程度有効であるのかを比較しつつ、退学者数等の経緯と現状を分析し、教員と連携しつつ、学生支援の環境が整えられるよう検討する。</p> <p>2. 学外の研修会などに参加し、他大学の状況などの情報を収集し、学生の支援体制の充実を図る。</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>

学 園 本 部

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 学園の総合的な業務効率化に向けての改革（継続） 2. 人事・給与制度改革（継続） 3. 学園創立100周年に向けた取り組み（継続） 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革 (1)業務改革支援室にて、ワークフロー・施設予約のシステム選定を行い、導入システムが確定した。電子決裁や施設備品の統一的管理の実現に向けて学内調整及びシステム構築を行っている。</p> <p>2. 人事・給与制度改革 (1)新・勤怠管理システムの選定を行い、導入システムの決定及び学内プロジェクトチームの立ち上げを行った。 (2)就業規程・給与規程をはじめ、学内規程の見直しを行っている。</p> <p>3. 学園創立100周年に向けた取り組み (1)緑道へのフラッグ掲示をはじめ、学園創立100周年記念の屋外装飾を実施した。 (2)学校法人文化学園ホームページリニューアル及び学園創立100周年記念サイトの作成を開始した。 (3)学園創立100周年の記念品として、ストールの作成を開始した。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. 学園の総合的な業務効率化に向けての改革（継続） 2. 人事・給与制度改革（継続） 3. 学園創立100周年に向けた取り組み（継続） 【大】</p>

■検討組織名：学園本部 総務部

開催年月日	会議等の開催記録（学園運営会議）
2021年4月8日	1. 新年度にあたり 2. 新型コロナの対応について
2021年5月13日	1. 新型コロナの対応について 2. 理事会・評議員会について
2021年6月10日	1. 新型コロナの対応について 2. 大沼淳先生「お別れの会」について 3. 高田賢三展について
2021年7月15日	1. 新型コロナの対応について 2. 新型コロナワクチンの「職域接種」について 3. 大沼淳先生「お別れの会」について
2021年9月9日	1. 後期の授業体制について 2. 新型コロナワクチンの「職域接種」について
2021年10月14日	1. 新型コロナの対応について 2. 学生募集について
2021年11月11日	1. 新型コロナの対応について
2021年12月9日	1. 業務改革について 2. 教員の働き方改革に関する規程等の改定とアンケート調査について 3. 学園創立100周年記念事業について
2022年1月13日	1. 新型コロナの対応について
2022年2月10日	1. 新型コロナの対応について 2. 教員の働き方改革に関する報告と今後について 3. 2022年度事業計画について
2022年3月10日	1. 学内ネットワークの整備について 2. 教員の働き方改革（残業問題）について

開催年月日	会議等の開催記録（学園創立100周年記念事業企画委員会）
2021年11月11日	記念事業企画委員会にて基本方針、スローガン、個別事業等について検討
2021年12月9日	記念事業企画委員会で検討された事業内容及び屋外装飾実施予定について運営会議にて報告
2022年2月25日	記念事業企画委員会で検討された事業内容及び寄附金募集について評議員会に報告承認
2022年2月25日	記念事業企画委員会で検討された事業内容及び寄附金募集について理事会に報告承認

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育環境を確保するため建築・設備の中長期計画に基づく既存施設の整備工事を実施する。 2. 学園施設利用者の安全確保及び学園資産の保全のため、E館耐震工事を実施する。 3. 蛍光灯安定器の分離した高濃度低濃度PCB含有機器の処分作業を実施する。 4. D館の機械換気装置がない教室の新型コロナ感染防止対策として、ロスナイ換気装置を計画的に導入する。 5. 産業廃棄物の再利用と再資源化を継続的に行い、渋谷区清掃及びリサイクルに関する条例の可燃ごみ再利用率80%を目標とする。 6. 国際学生会館の入寮生については、4校との連携を図り、入寮可能数の確保のため継続的に募集活動をする 7. 学園内のバリアフリー対策を開始し、各校舎に車いす対応として、「誰でもトイレ」の設置や出入口開き戸を自動ドアに改修計画を開始する。2021年度はABC館南側出入口に自動ドアを設置する。 8. 各棟LED化を含めた、省エネルギー計画を継続的に推進する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中長期整備計画に基づき、継続的にF館2F空調設備改修工事、ABC館空調設備整備工事、プラザ棟食堂空調機整備工事及び電力監視盤改修工事を実施した。 2. E館耐震補強工事を実施した。また非構造部材対策として、ABC館、DE館の外壁調査を行った。 3. 高濃度PCB処分場処理量オーバーのため、PCB含有機器の処分を2022年度に延期した。 4. D館4・5Fの換気装置のない実習室にロスナイ換気装置を設置した。 5. コロナ禍であり、学園の稼働率も減少していたが、可燃物ごみ再利用率が56%から76.9%となった。引き続き再利用率の向上に努める。 6. 新型コロナ感染防止に伴う留学生入国制限により、40%の留学生が未入寮であった。 小平国際学生会館の売却後、1年間の賃貸借契約を行い、学生の生活環境維持を図った。 7. C館南側に自動ドアを設置し、身障者対応のバリアフリー対応をした。 8. 2021年度はI館LED照明更新工事を行い省エネ、省力化を図った。 【共】
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育環境を確保するため建築・設備の中長期計画に基づく既存施設の整備工事を継続的に実施する。 2. 2021年度に計画していた高濃度PCB含有機器の処理事業を実施する。 3. 建物の漏水防止のためABC館サッシュ廻りシール交換工事を実施する。 4. 学園施設利用者の安全確保及び学園資産の保全のため、I館耐震工事を実施する。 5. 耐震対策としてDE館外壁非構造部材補修工事を実施する。 6. 新型コロナ感染防止対策として、D館の機械換気装置がない教室のロスナイ換気装置を計画的に導入する。 7. 小平国際学生会館売却に伴い、代替の寮を借用し学生の生活環境維持を図る。 8. バリアフリー対策としてABC館北側入口に自動ドアを設置する。 9. 防犯対策のため防犯カメラの設置を行う 10. 各棟LED化を含めた、省エネルギー計画を継続的に推進する。 【大】

■検討組織名： 学園本部経理部

報告者：秋元 雅則

提出日：2022年3月29日

<p>本年度の課題 (2021年度)</p>	<p>1. 「文化学園経理規程」及び関連する細則の改正へ向けて、引き続き検討を重ねる。 2. 学園の「資金収支中長期財務計画」を基に、財務基盤の充実を図り、教育・経営環境の変化に対応した施設設備への投資や基本財産の入替えを行う。 3. 新型コロナウイルス感染拡大防止のために必要な対策及び措置を講じる。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「文化学園経理規程」及び関連する細則の改正へ向けて、引き続き検討を行っている。 2. 各部署と協議し、2029年度までの「資金収支中長期財務計画」、「事業活動別中長期財務計画」を作成した。 学内の通信帯域増強のため、各教室、事務室等のメディアコンバータ機器を交換した。 3. オンライン授業のための無線Wi-Fi設備設置等のインターネット環境設備の整備を行った。 学生・教職員の安全の確保と教育研究活動他業務を安心・安全に実施できる環境を整えるため、新型コロナワクチンの職域接種を実施した。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022年度)</p>	<p>1. 「文化学園経理規程」及び関連する細則の改正へ向けて、引き続き検討を重ねる。 2. 学園の「資金収支中長期財務計画」を基に、財務基盤の充実を図り、教育・経営環境の変化に対応した施設設備への投資や基本財産の入替えを行う。 3. 新型コロナウイルス感染拡大防止のために必要な対策及び措置を講じる。 【大】</p>

■検討組織名：IT 委員会（ICT 推進課）

報告者：内谷 達郎

提出日：2022 年 3 月 28 日

<p>本年度の課題 (2021 年度)</p>	<p>1. 「キャンパスプラン」のバージョンアップを行うか、新たに開発される「キャンパスプラン Smart」に乗り換えを行うか、引き続き検討を行う。</p> <p>2. 現状のシステム利用について見直し、ICT を利活用した業務軽減の提案に努める。</p> <p>3. 引き続き、ICT を利用した授業支援の提案に努める。</p> <p>4. Internet Explorer11（以下、IE11）のサポート終了に伴うキャンパスプランの対応を検討する。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「キャンパスプラン」のリニューアルについて検討を行った。「キャンパスプラン smart」に関しては 2023 年度の Windows Server 2012 R2 サポート切れまでに開発が間に合わないため、今回のリニューアルでは「キャンパスプラン Ver10.2」を選択することとした。2022 年度の「キャンパスプラン Ver10.2」へのバージョンアップの準備及び「キャンパスプラン Smart」への移行時期を中長期計画で行う検討を進める。</p> <p>2. 就職システムにおいて「キャンパスプラン」のデータと Google ドライブを活用し、就職掲示板作成のサポートや求人票配信方法の見直しを行った。</p> <p>3. オンライン授業対応に Google Meet や Google Classroom 等、Google Workspace のサービスを活用し、授業支援の提案に努めた。また、授業に必要なソフトの調達に協力をした。</p> <p>4. 2022 年 6 月の IE11 のサポート終了が発表され、IE11 でのみ稼働する「キャンパスプラン」の対応を検討した。バージョンアップを目前に控えてはいるものの対応が必要なため、Google chrome での利用を可能とするカスタマイズを行うこととした。サポート終了までには対応する見込みとなった。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2022 年度)</p>	<p>1. 「キャンパスプラン」のバージョンアップ準備を行うとともに、「キャンパスプラン Smart」の製品調査を継続する。</p> <p>2. 現状の事務システムについて見直し、ICT を利活用した業務軽減の提案に努める。</p> <p>3. ICT の活用による、授業支援の提案に努める。</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2021 年 5 月 27 日	1. 「キャンパスプラン Smart」の開発状況等について
2021 年 9 月 1 日	IT 委員会大学小委員会 前期の活動報告とお知らせをメンバーに送付
2021 年 9 月 24 日	1. 「キャンパスプラン」バージョンアップに関するスケジュールの聞き取り
2021 年 10 月 5 日	第 1 回「キャンパスプラン」リニューアルプロジェクト
2022 年 2 月 17 日	IT 委員会大学小委員会 後期の活動報告とお知らせをメンバーに送付

附： 委員会委員一覧表
学部・学科・コース編成
入学定員・収容定員・在籍学生数
全学自己点検・評価委員会委員名簿

2021年度 文化学園大学・文化学園大学短期大学部委員会委員一覧表

2021年4月1日

[常置委員会]

◎委員長 ○副委員長 △書記 (敬称略・順不同)

		教 務	学生支援	入試対策	就 職
1	服装造形学、生産工学、和裁	○平良木 啓子	△大橋 寛子	△寺嶋 朋子	田端 智香
2	短大部ファッション学科	佐藤 綾	野沢 さおり	木全 秀美	小出 恵
3	服装デザイン学、服飾工芸 ファッション画、テキスタイル、 機能デザイン学、服飾文化共同	金尾 佐和子	松井 有子	横田 香野子	渡邊 裕子
4	服装社会学 服飾文化共同、和装文化研究所	◎北方 晴子	工藤 雅人	下山 かおり	小林 幹彦
5	染織、金工、グラフィック・プロダクト デザイン・映像、絵画、基礎造形 造形・色彩学	松村 由樹子	山田 拓矢	鳥海 薫	岡部 隆信
6	建築・インテリアデザイン	渡邊 裕子	横山 稔	浅沼 由紀	谷口 久美子
7	語学、教育学・体育学、調理学、 和装文化研究所、(博物館学)	勝山 祐子	田辺 里枝子	○森谷 直樹	安藤 葉子
8	国際文化・観光A 国際文化・観光B	米井 由美	◎白井 菜穂子	小川 祐一	星 圭子
9	国際ファッション 応用健康心理学	△清水 美里	○菊住 彰	樋掛 英里 4~7月 加藤淳之介 8~3月	根本 賀奈子
10	教務部、学生部、就職支援一課	高野 博子	宮本 朱	相澤 浩子	吉田 和代 △池田 衛
学長 指名			八浪 美穂	◎高橋 正樹 清木 孝悦	◎丸茂みゆき ○中西 教夫

[特別委員会]

全学自己点検・評価	全学FD	研 究	研究倫理	研究公正	研究活動不正防止	公開講座実行
◎渡邊 秀俊 ○瀬島健二郎 △押山 元子 伊藤由美子 近藤 尚子 申 恩泳 千葉 悦子 小林 未佳 北浦 肇 杉田秀二郎 梶田 貴子 下山かおり 清木 孝悦 円谷 葉子 高野 博子 二茅みゆき	◎昼間 行雄 ○スワット チャロニボ ソラニッチ △村上 剛規 吉田 昭子 久木 章江 田中 里尚 井上 昌恵 遠藤 典子 北岡 竜行 清木 孝悦 円谷 葉子 吉田 和代	◎高村 是州 ○安永 明智 ○曾根 里子 △井口 彰子 △後藤 望 △三品 和之 中沢 志保 砂長谷由香 岡林 誠士 嘉松 聡 古屋 則子 二茅みゆき 藤澤 千晶	◎米山 雄二 ○中沢 志保 △藤澤 千晶 永富 彰子 渡邊 秀俊 石田名都子 永井 伸夫 本間 博 佐藤真理子 清木 孝悦 円谷 葉子	◎米山 雄二 清木 孝悦 永富 彰子 渡邊 秀俊 石田名都子 中沢 志保 浅沼 由紀 近藤 尚子 永井 伸夫 田村 照子 野口 京子 円谷 葉子 藤澤 千晶	◎米山 雄二 ○高橋 正樹 △藤澤 千晶 永富 彰子 渡邊 秀俊 石田名都子 中沢 志保 近藤 尚子 清木 孝悦 秋元 雅則 佐藤 申 円谷 葉子	◎安高 信一 ○佐藤真理子 熊谷 伸子 関口 光子 岡本 泰子 梶田 貴子 中島 敬子 二茅みゆき 藤澤 千晶 吉村 紅花

ハラスメント防止	障害学生支援
◎石田名都子 ○三島 万里 △千葉 悦子 安高 信一 佐藤 浩信 円谷 葉子 宮本 朱 吉田 和代	【相談員】 平良木啓子 北浦 肇 七里 真代 下山かおり 星 圭子 柴田 早苗 小出 恵 山根 愛

[学部専門委員会]

衣料管理士課程	建築・インテリア系資格	文化・語学研修	日本語教員養成課程
◎矢中 睦美 ○由利 素子 △角田 薫 小林 未佳 松井 有子	◎谷口久美子 ○浅沼 由紀 △曾根 里子 横山 稔 種田 元晴	◎加藤 薫 ○佐藤 浩信 △米田 紀子 久保田 文 ジョン・デビッド・ホー	◎星 圭子 ○加藤 薫 △島山 理恵 白井菜穂子

[課程専門委員会]

教職課程	学芸員課程	司書課程
◎森谷 直樹 ○白石 一徳 △五十嵐清子 北浦 肇 鳥海 薫 栗山 丈弘 中島 敬子	◎田中 直人 △岡島 奈音	◎瀬島健二郎 △吉田 昭子

図書館	国際交流	IT委員会大学小
◎矢中 睦美 ○白石 一徳 野沢さおり 深田 雅子 種田 元晴 加藤淳之介 二茅みゆき	◎石田名都子 ○永富 彰子 △高野 博子 渡邊 秀俊 古屋 則子 佐藤 浩信 柴田 早苗 8～3月 樋掛 英里 4～7月 清木 孝悦 古屋 和雄 4～6月 円谷 葉子 高橋 典子 7～3月	◎スワット チャロンボ ソラニッチ ○白井 信 △野沢さおり 柳田 佳子 曾根 里子 村上 剛規 岡林 誠士 高野 博子 山川あづさ

学部・学科・コース編成 (2021年度)

文化学園大学大学院

生活環境学 研究科	被服環境学専攻 (博士後期課程)	
	被服学専攻 (博士前期課程)	アドバンスファッションデザイン専修 テキスタイルデザイン学専修 服装機能学専修 服装社会・文化専修 ファッションビジネス専修 グローバルファッション専修
	生活環境学専攻 (修士課程)	生活造形学専修 建築・インテリア学専修
国際文化 研究科	国際文化専攻 (修士課程)	国際文化専修 健康心理学専修

文化学園大学

服装学部	ファッションクリエイション学科	アパレルフィールド プロデュースフィールド アドバンスフィールド
	ファッション社会学科	
造形学部	デザイン・造形学科	メディア映像クリエイションコース グラフィック・プロダクトデザインコース ジュエリー・メタルデザインコース
	建築・インテリア学科	インテリアデザインコース 建築デザインコース
国際文化学部 (2020年度生より 現代文化学部から 名称変更)	国際文化・観光学科	
	国際ファッション文化学科	スタイリスト・コーディネーターコース プロデューサー・ジャーナリストコース 映画・舞台衣装デザイナーコース
	応用健康心理学科	

文化学園大学短期大学部

ファッション学科	
専攻科	ファッション専攻

入学定員・収容定員・在籍学生数 (2021年5月1日現在)

文化学園大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
生活環境学	被服環境学(博士後期)	2	6	7
	被服学(博士前期)	20	40	33
	生活環境学(修士)	6	12	12
国際文化	国際文化(修士)	6	12	6

文化学園大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	現員
服 装	ファッションクリエイション	300	1240	1155
	ファッション社会	140	580	558
造 形	デザイン・造形	120	480	505
	建築・インテリア	120	480	510
国際文化 (2020年度より現代 文化学部より名称変 更)	国際文化・観光	50	180	248
	国際ファッション文化	120	480	529
	応用健康心理	0	30	11

文化学園大学短期大学部

学科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
ファッション	—	0	50	39
専攻科	ファッション	20	20	0

全学自己点検・評価委員会 委員名簿 (2021年度)

委員長	渡邊 秀俊
副委員長	瀬島健二郎
書記	押山 元子
	伊藤由美子
	近藤 尚子
	申 恩泳
	千葉 悦子
	小林 未佳
	北浦 肇
	杉田秀二郎
	梶田 貴子
	下山かおり
	清木 孝悦
	円谷 葉子
	高野 博子
	二茅みゆき

文 化 学 園 大 学
文化学園大学短期大学部
自己点検・評価報告書 -2021年度-

2022年8月1日発行

編集：文化学園大学 文化学園大学短期大学部
全学自己点検・評価委員会